

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

No. \_\_\_\_\_

# 農 薬 抄 録

## クロルフェナピル

(殺虫剤)

作成年月日

改 訂 平成25年 3月 1日

(作成会社名) 日本農薬株式会社

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

## 目次

I. 開発の経緯	a-1
II. 物理的・化学的性状	a-4
III. 生物活性	a-14
IV. 適用及び使用上の注意	a-18
V. 残留性及び水質汚濁性	a-26
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	a-79
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等	a-100
VIII. 毒性	b-1
1. 原体	b-7
(1) 急性毒性	b-7
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	b-12
(3) 皮膚感作性	b-15
(4) 急性神経毒性	b-20
(5) 90日間反復経口投与毒性	b-23
(6) 21日間反復経皮投与毒性	b-37
(7) 反復経口投与神経毒性	b-40
(8) 1年間反復経口投与毒性及び発がん性	b-62
(9) 繁殖毒性及び催奇形性	b-101
(10) 変異原性	b-124
(11) 生体機能影響	b-143
(12) 解毒及び治療	b-147
(13) その他	b-149
2. 原体混在物及び代謝物	b-159
3. 製剤	b-181
IX. 動植物及び土壌等における代謝分解	c-1
1. 抄録中で用いる代謝物の略名	c-7
2. 代謝・分解試験等に用いた標識化合物及びそれらの合成法	c-9
3. 動物体内運命	c-11
4. 植物体内運命	c-43
5. 土壌中運命	c-64
6. 水中運命	c-77
7. 土壌吸着性	c-89
8. 生物濃縮性	c-90

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

9. 代謝・分解のまとめ .....	c-94
[附] クロルフェナピルの開発年表 .....	c-102

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

## I. 開発の経緯

クロルフェナピル（商品名 コテツ）は、アメリカンサイアナミッド社（現BASF社）により発明された新規殺虫一殺ダニ剤である。

三菱化学㈱は我が国における開発と販売の独占実施権を取得し、MK-242の試験名で（社）日本植物防疫協会を通じて10%フロアブル製剤にて委託試験を開始した。その結果本剤は、野菜、茶、果樹等の鱗翅目、アザミウマ目、ダニ目の主要害虫に効果を示し、特に難防除害虫であり既存の薬剤に抵抗性を示すコナガ、ミナミキイロアザミウマ及びハダニ類に対しても卓効性を示した。

本剤は酸化的リン酸化の脱共役作用を示し、この作用により細胞内ATPを枯渇させ殺虫作用を発現するものと考えられている。

安全性評価に必要な毒性試験及び代謝試験等はより、作物残留試験及び土壌残留試験はより実施され、その安全性が確認された。平成8年4月25日にコテツフロアブルが国内登録となった。

海外においては、日本農薬がマレーシア、フィリピンで農薬登録を有し、その他の国においてはBASF社が登録を取得している（次頁に掲載された各国での農薬登録状況表を参照）。

国内においては食品安全委員会等で安全性評価がなされ、ADIは0.026 mg/kg/日（NOEL: 2.6 mg/kg/日、安全係数 1/100）に設定された。

クロルフェナピルの国際的な安全性評価としては、2012年のJMPRにおいて評価され、ADIは0.03 mg/kg/日、ARfDは0.03 mg/kg/日と設定された。また、EU EFSAでは2000年にADIは0.03 mg/kg/日、ARfDは0.03 mg/kg/日、US EPAでは2003年にADI（chronic RfD）は0.003 mg/kg/日、ARfDは0.015 mg/kg/日（女性13～50歳のみ）あるいは0.045 mg/kg/日（幼小児を含む一般）と設定された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。  
 各国での農薬登録状況（2005年 3月現在）

国名	商品名	作物
アルゼンチン	Sunfire	綿花、トマト
オーストラリア	Intrepid	綿花
	Secure	リンゴ、モモ樹木、ナシ樹木、野菜
ボリビア	Pirate	カンキツ、綿花
ブラジル	Citrex	カンキツ、綿花
	Pirate	乾燥豆、キャベツ、綿花、ニンニク、ケール、トウモロコシ、メロン、玉葱、パパヤ、パッションフルーツ、ピーマン、花卉、ジャガイモ、トマト、スイカ
ブルガリア	Tenopa	非農耕地用
チリ	Sunfire	ジャガイモ、トマト
中国	Chu-Jin	アブラナ科野菜、キャベツ、野菜
コスタリカ	Sunfire	ブロッコリー、キャベツ、綿花
ドミニカ共和国	Pirate	ピーマン、ブロッコリー、キャベツ、ニンニク、玉葱、花卉、ジャガイモ
エクアドル	Sunfire	野菜
エジプト	Challenger	綿花、ぶどう、モモ樹木、ジャガイモ、大豆、シュガービート、トマト
エルサルバドル	Sunfire	ブロッコリー、キャベツ、綿花
グアテマラ	Sunfire	ブロッコリー、キャベツ、綿花
ホンジュラス	Sunfire	ブロッコリー、キャベツ、綿花
インド	Challenger	キャベツ、カリフラワー、花卉、野菜
	Intrepid	キャベツ
インドネシア	Rampage	リンゴ、キャベツ、トウガラシ、玉葱、花卉、ジャガイモ、ジャロット、大豆、トップフルーツ
イスラエル	Pirate	ナス、ピーマン、綿花、キュウリ、ピーナッツ、メロン、花卉、ジャガイモ、イチゴ、トマト、スイカ
	Secure	カンキツ、花卉
ヨルダン	Pirate	カンキツ、キュウリ、ブドウ、メロン、玉葱、花卉、モモ、トマト、ナス、オクラ、香辛料、ネクタリン、リンゴ、イチゴ
	Kotetsu	カリフラワー、キュウリ、メロン、トマト、玉葱、ナス、香辛料、オクラ、核果類果実
ケニヤ	Secure	カーネーション
マレーシア	Kotetsu	キャベツ、ウリ類、オクラ、トウガラシ、ナス、バラ
フィリピン	Kotetsu	キャベツ、ジャガイモ、バナナ

(次頁に続く)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

各国での農薬登録状況（続き）

韓国	クロルフェナピルとアセチムプリド混合剤	スイカ
	Heet	リンゴ、ハクサイ
	Pabalma	ネギ
	Rampage	ハクサイ、カンキツ、ネギ、花卉、トウガラシ、トップフルーツ、野菜、リーキ
	Secure	リンゴ、カンキツ、ナシ樹木、茶、香辛料、ハクサイ
	Sunfire	リンゴ、カンキツ
	Synergy	リンゴ
	Intrepid	カンキツ、玉葱、ナシ樹木
Solite	カンキツ	
クウェート	Kotetsu	カンキツ、花卉、野菜
レバノン	Alert	カンキツ、花卉、野菜
	Pirate	果樹、野菜
メキシコ	Sunfire	綿花、花卉
ニュージーランド	Challenger	リンゴ、ブドウ、花卉
	Secure	ナス、玉葱、ジャガイモ
ニカラグア	Sunfire	ブロッコリー、キャベツ、綿花
パキスタン	Pirate	リンゴ、キャベツ、綿花、メロン、野菜
パナマ	Sunfire	ブロッコリー、キャベツ、綿花
パラグアイ	Pirate	豆類、ピーマン、キャベツ、キク、綿花、ニンニク、トウモロコシ、メロン、トマト、スイカ
	Sunfire	綿花
ペルー	Convey	綿花、オレンジ、ピーマン、トマト
	Sunfire	乾燥豆類、ピーマン、綿花、オレンジ、トマト
南アフリカ	Hunter	リンゴ、カンキツ、綿花、ブドウ、ネクタリン樹木、ナシ樹木、プラム樹木、ジャガイモ、トマト
	Cordless	キャベツ、花卉
	Cymite	花卉、バラ
台湾	Alert	キャベツ、メロン、ナシ樹木、豆類、茶、トマト、野菜、ワックス・アップル
タイ	Secure	アブラナ科野菜、カンキツ、ブドウ
	Rampage	アブラナ科野菜、カンキツ、ブドウ、マンゴ、トロピカルフルーツ、野菜
トルコ	Pirate	ピーマン、綿花、トウモロコシ、スイカ、リンゴ、ナス、カーネーション、カンキツ、綿花、ピスタチオ樹木、イチゴ
ウガンダ	Secure	花卉
米国	Pylon	花卉（温室）、第8類果菜（温室）
ウルグアイ	Sunfire	トマト
ウズベキスタン	Grizzly	リンゴ、綿花、トマト
ベネズエラ	Sunfire	玉葱

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

## II. 物理的・化学的性状

### 1. 有効成分の名称および化学構造

#### (1) 一般名

クロルフェナピル

chlorfenapyr (ISO名)

#### (2) 別名

商品名：コテツ (Kotetsu)

試験名：MK-242、AC303630

#### (3) 化学名

##### IUPAC名

和名：4-ブ<sup>ロ</sup>モ-2-(4-クロロフェニル)-1-エトキシメチル-5-トリフルオロメチルピ<sup>ロ</sup>ール-3-カルボ<sup>ニ</sup>トリル

英名：4-bromo-2-(4-chlorophenyl)-1-ethoxymethyl-5-trifluoromethyl  
pyrrole-3-carbonitrile

##### CA名

和名：4-ブ<sup>ロ</sup>モ-2-(4-クロロフェニル)-1-(エトキシメチル)-5-(トリフルオロメチル)-1H-ピ<sup>ロ</sup>ール-3-  
カルボ<sup>ニ</sup>トリル

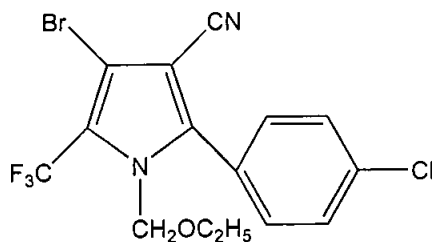
英名：4-bromo-2-(4-chlorophenyl)-1-(ethoxymethyl)-5-(trifluoromethyl)  
-1H-pyrrole-3-carbonitrile

##### MAFF名

和名：4-ブ<sup>ロ</sup>モ-2-(4-クロロフェニル)-1-エトキシメチル-5-トリフルオロメチルピ<sup>ロ</sup>ール-3-カルボ<sup>ニ</sup>トリル

英名：4-bromo-2-(4-chlorophenyl)-1-ethoxymethyl-5-trifluoromethylpyrrole-  
3-carbonitrile

#### (4) 構造式



(5) 分子式  $C_{15}H_{11}BrClF_3N_2O$

(6) 分子量 407.6

(7) CAS No. 122453-73-0

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目	測定値 (測定条件)	測定方法/試験機関/GLP/報告年		
色調	白色 (22.3℃)	色調：目視法 形状：目視法 臭気：官能法		
形状	固体・粉末 (24.3℃)			
臭気	無臭 (24.2℃)			
密度	1.34 g/cm <sup>3</sup> (25℃)	OECD TG 109 に準ずる 空気比較比重計法		
融点	100~101℃	EPA D-63-5, 毛細管法		
沸点	150℃以上で分解 のため測定不能	OECD TG 113 示差熱分析法 (DTA)		
蒸気圧	< 1.33×10 <sup>-5</sup> Pa (25℃)	EPA D-63-9 EPA ガス飽和法		
解離定数 (pKa)	試験省略			
溶解度	水	0.12 mg/L (25℃)	EPA D-63-8, フラスコ法	
	有機溶媒	ヘキサン		8.9 g/L (25℃)
		トルエン		754 g/L (25℃)
		ジクロロメタン		1410 g/L (25℃)
		アセトン		1140 g/L (25℃)
		メタノール		70.9 g/L (25℃)
		アセトニトリル		684 g/L (25℃)



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

項目	測定値 (測定条件)	測定方法/試験機関/GLP/報告年
オクタノール/水分配係数 (log Pow)	4.83 (25°C)	EPA D-63-11, フラスコ振とう法
魚類濃縮性試験	クロルフェニル濃度に基づく BCF ; 全魚体で66~74	EPA 165-4
土壌吸着係数	$K_{Foc}^{ads} = 2345 \sim 13087$ $K_F^{ads} = 101 \sim 224$ (25°C) [日本土壌]	OECD TG 106
加水分解性 (半減期)	pH 4.0 28日以上 (25°C) pH 9.0 28日以上 (25°C)	OECD TG 111
	pH 7.0 1年以上 (25°C) pH 5.0: 30日以上 (25°C) pH 7.0: 30日以上 (25°C) pH 9.0: 30日以上 (25°C) 30日間安定である。	EPA 161-1
水中光分解性	自然水	T1/2 14.6時間 (25°C) 遮光下: クロルフェニルの残存率 104% (8時間後)
	試験条件	温度 25°C, 光強度: 830 W/m <sup>2</sup> , 波長範囲: 300~800 nm
	緩衝液	pH 5.0 T1/2 5.2日 pH 7.0 T1/2 7.5日 pH 9.0 T1/2 4.8日
	試験条件	温度; 25°C, 光強度; 239.3 W/m <sup>2</sup> 波長範囲; 300-800 nm 試験期間; 30日間
熱安定性	150°C以上で分解	OECD TG 113 示差熱量分析法(DTA)& 熱重量分析法 (TGA)
スペクトル	UV/VIS、IR、MS	UV/VIS : OECD TG 101 IR、MS : 9農産第 5089号
	NMR	9農産第 5089号

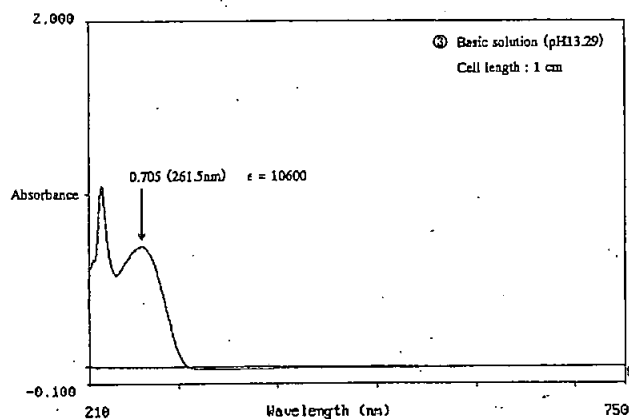
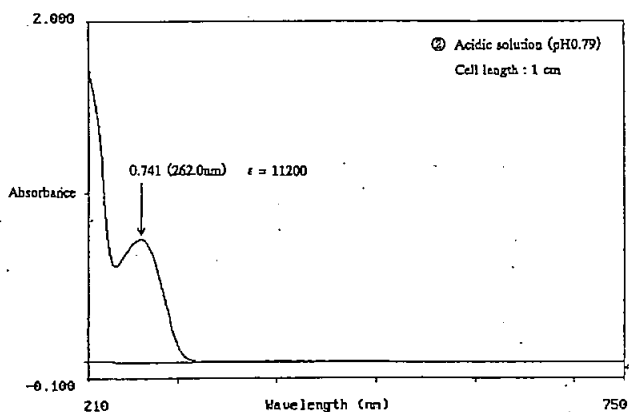
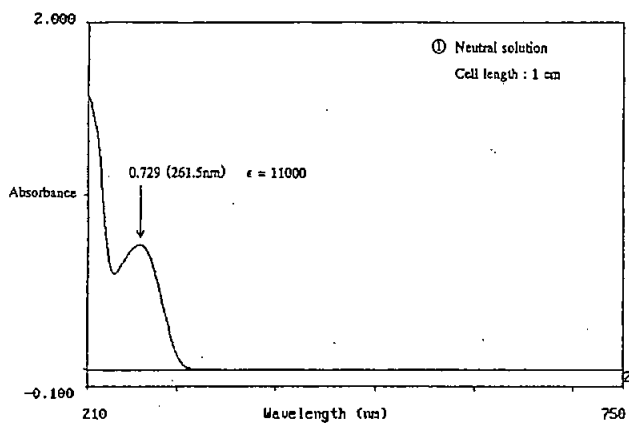
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。  
 UV、赤外、MS、NMR (H-, C-) 等のスペクトル

- UV/VIS 吸収スペクトル (GLP、OECD TG101、紫外可視分光光度計法、)

紫外可視分光光度計、V-530 型、日本分光

測定波長範囲：210~750nm、測定温度：24.9~25.3°C。

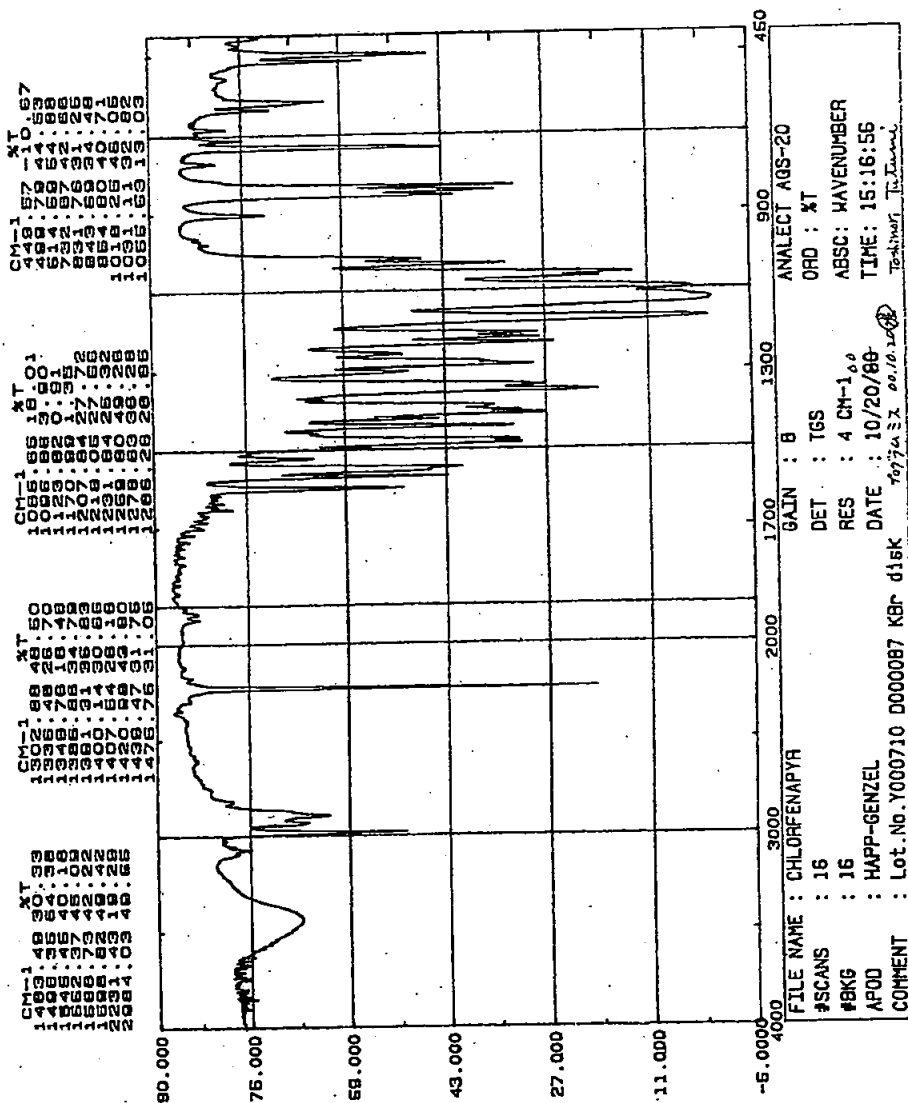
スペクトル測定液	pH	極大吸収 ( $\lambda$ max)	モル吸光係数 ( $\epsilon$ )
中性液	—	261.5nm	11,000
酸性液	0.79	262.0nm	11,200
塩基性液	13.29	261.5nm	10,600



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

- IR スペクトル (GLP、9 農産第 5089 号、)
- 赤外分光光度計、AQS-20M 型、アサクトインストメント
- 測定波長範囲：4000~450cm<sup>-1</sup>

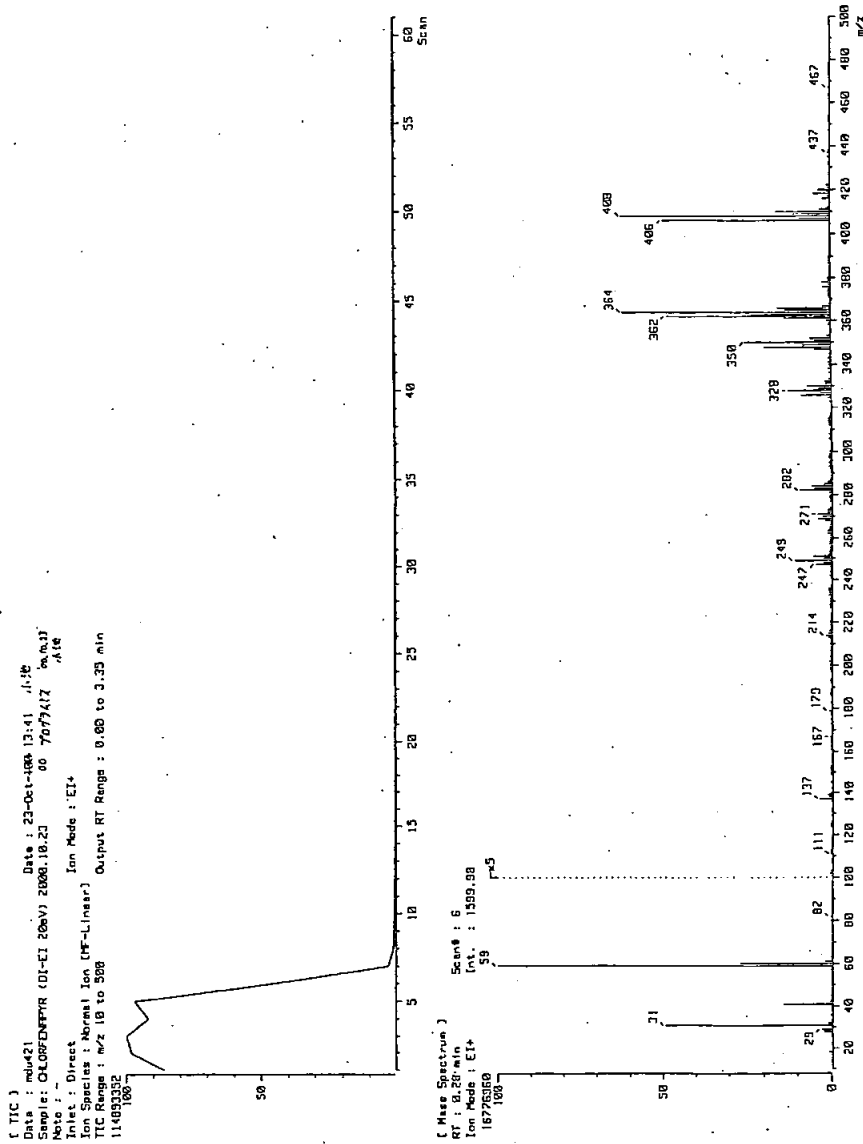
特性吸収帯 (波長 (cm <sup>-1</sup> ))	特性吸収帯の帰属
515	C-Br
733	C-Cl
1124	C-O 伸縮
1599	ベンゼン核
2231	CN 伸縮
2984	CH 伸縮



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

- MS スペクトル (GLP、9 農産第 5089 号、 )
- 質量分析計、JMS-700 型、日本電子
- 電子衝撃法、測定範囲：10~500m/z

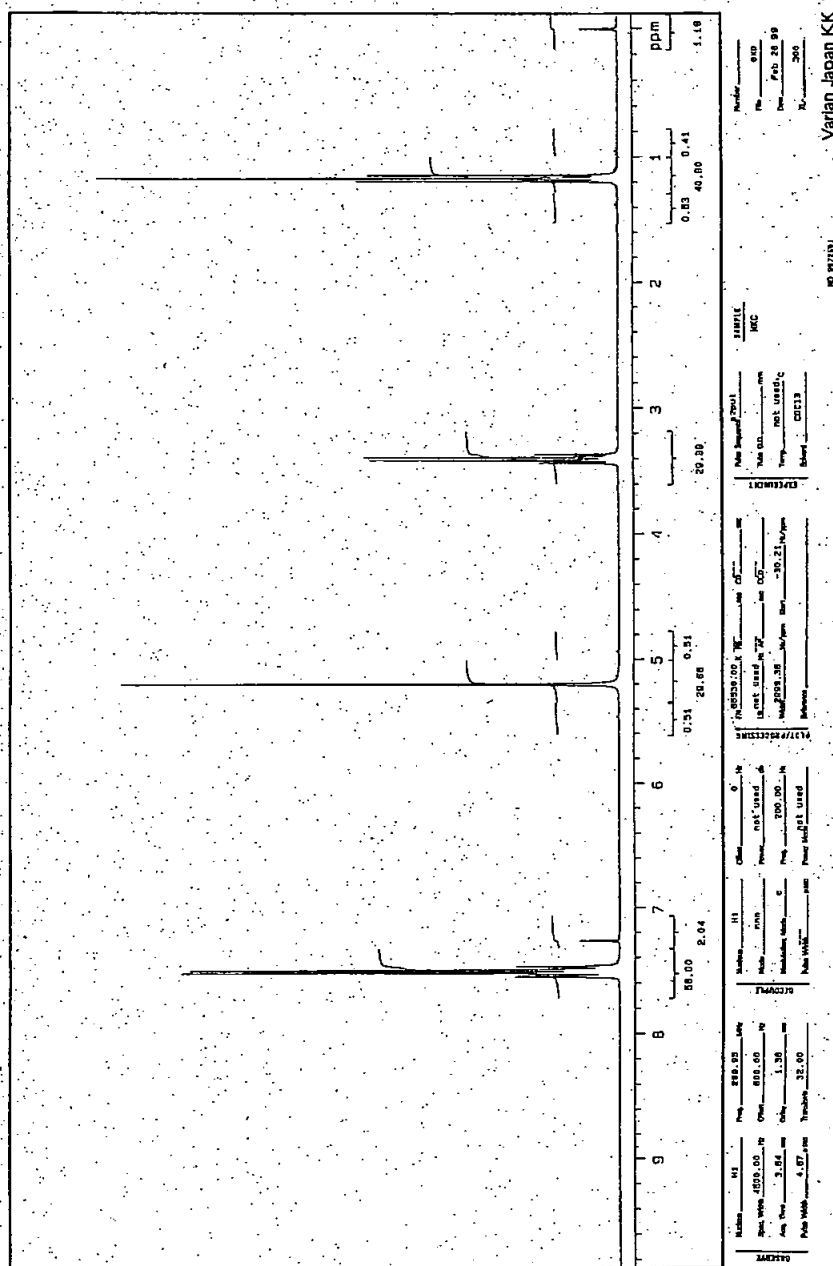
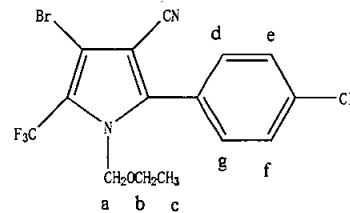
ピーク (m/z)	ピークの帰属
59	$(\text{CH}_2\text{OCH}_2\text{CH}_3)^+$
348	$(\text{M}-\text{CH}_2\text{OCH}_2\text{CH}_3+\text{H})^+$
362	$(\text{M}-\text{OCH}_2\text{CH}_3+\text{H})^+$
406	$\text{M}^+$



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

- ・ NMR (9 農産第 5089 号、 )  
 Varian UNITY-300、重クロホルム(0.03%テトラメチルアン含有)  
<sup>1</sup>H NMR スペクトルの帰属

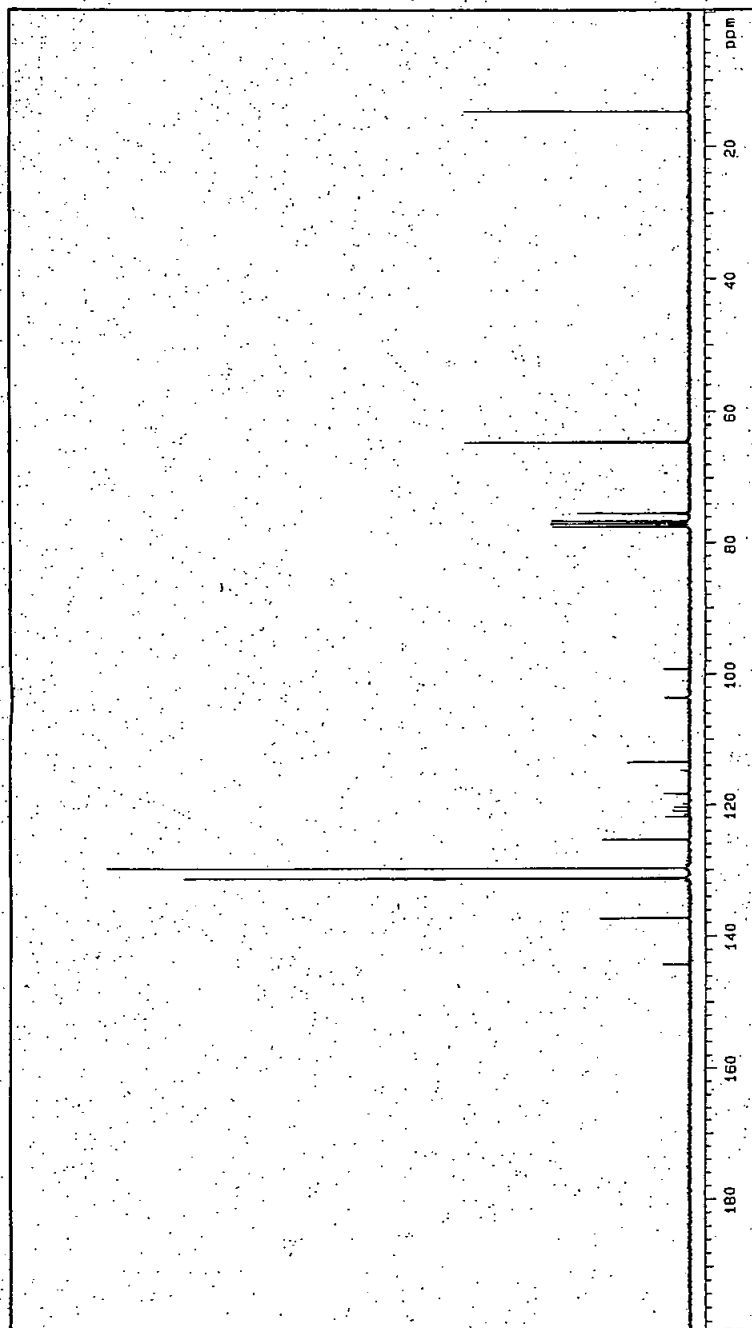
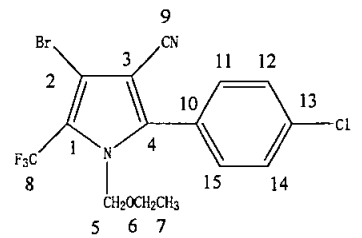
水素原子 No.	化学シフト ( $\delta$ ppm)	多重度	水素数
H <sub>a</sub>	5.20	singlet	2
H <sub>b</sub>	3.40	quartet	2
H <sub>c</sub>	1.17	triplet	3
H <sub>d</sub> , H <sub>e</sub> , H <sub>f</sub> , H <sub>g</sub>	7.45~7.55	multiplet	4



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

<sup>13</sup>C NMR スペクトルの帰属

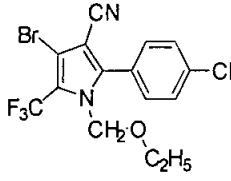
炭素原子 No.	化学シフト (δ ppm)		
C <sub>1</sub>	120.64 (quartet)	C <sub>8</sub>	120.05 (quartet)
C <sub>2</sub>	103.57	C <sub>9</sub>	113.39
C <sub>3</sub>	99.16	C <sub>10</sub>	125.28
C <sub>4</sub>	144.29	C <sub>11</sub> , C <sub>15</sub>	131.22
C <sub>5</sub>	75.45	C <sub>12</sub> , C <sub>14</sub>	129.61
C <sub>6</sub>	64.56	C <sub>13</sub>	137.27
C <sub>7</sub>	14.66		



Varian Japan KK  
 No. 97291  
 SAMPLE: 13C BENZIMIDAZOLE  
 INSTRUMENT: FT-100  
 PULSE PROGRAM: zgpg30  
 NUC1: 13C  
 NUC2: 13C  
 FREQ: 125.76 MHz  
 PROC: 13C  
 DATE: 1981.03.10  
 TIME: 11.30  
 NAME: 13C

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

3. 原体の成分組成

名称 〔略号〕		構造式 分子式 分子量	含有率 (%)	
			規格値	通常値
有効成分	4-ブ <sup>o</sup> ロモ-2-(4-クロフェニル)-1-( エトキシメチル)-5-トリフルオロメチル <sup>o</sup> ロール - 3-カルボ <sup>o</sup> ニトリル	 <chem>C1=CC=C(C=C1)C2=C(C#N)C(C(F)(F)F)=N2COC</chem>		
	クロルフェニ <sup>o</sup> ル	C <sub>15</sub> H <sub>11</sub> BrClF <sub>3</sub> N <sub>2</sub> O 407.6		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

#### 4. 製剤の組成

##### 10.0%水和剤（コテツフロアブル）

クロルフェナピル	10.0%
水、界面活性剤 等	90.0%



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

### Ⅲ. 生物活性

#### 1. 活性の範囲

効果が確認された害虫

##### ・鱗翅目 *Lepidoptera*

コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、ミダレカクモンハマキ、モモシンクイガ、ミカンハモグリガ、コブノメイガ、ニカメイガ、オオタバコガ、ヨモギエダシャク、モモハモグリガ、ハイマダラノメイガ、ウドノメイガ、ウリノメイガ、カキノヘタムシガ、イラガ

##### ・半翅目 *Hemiptera*

イチモンジカメムシ、チャノミドリヒメヨコバイ、ヤノネカイガラムシ、ツماغロヨコバイ、トビイロウンカ、フタテンヒメヨコバイ

##### ・甲虫目 *Coleoptera*

キスジノミハムシ、ウリハムシ、マメコガネ、サクラコガネ、イネミズゾウムシ、クスアアナキゾウムシ

##### ・アザミウマ目 *Thysanoptera*

ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ダイズアザミウマ、チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ

##### ・ダニ目 *Acarina*

カンザワハダニ、ナミハダニ、チャノホコリダニ、ミカンサビダニ、モモサビダニ、ニセナンサビダニ、リンゴサビダニ、チャノナガサビダニ、トマトサビダニ

#### 2. 作用機構

クロルフェナピルはミトコンドリアにおける酸化リン酸化反応では酸素吸収を阻害せずリン酸化のみ阻害する作用が確認されたため、酸化リン酸化の脱共役作用を示し、この作用により細胞内ATPを枯渇させ殺虫作用を発現するものと考えられている。

#### 3. 作用特性と防除上の利点等

(1) 既存の殺虫剤（カーバメート系、有機リン系、ピレスロイド系、ベンゾイルウレア系、クロロニコチニル系等）と構造が異なる新しいタイプの殺虫剤である。

(2) 殺虫スペクトラムが広い。

・鱗翅目害虫（コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ウワバ類、キンモンホソガ等）に効果を示す。

・アザミウマ目害虫（ミナミキイロアザミウマ、チャノキイロアザミウマ等）に効果を示す。

・カンザワハダニやナミハダニ等の *Tetranychus* 属のハダニ類に効果を示す。特に、

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

抵抗性の発達したカンザワハダニの系統にも効果を示す。また、ホコリダニ類およびサビダニ類にも効果がある。

- (3) 既存の殺虫剤との交差抵抗性を示さない。
- (4) ハダニ類やアザミウマ類に対し、速効的に効果を示す。鱗翅目害虫に対しては主に食毒として作用するのでやや遅効性の場合があるが、I G R系統の薬剤より速く効果が発現する。
- (5) 比較的長い残効性がある。
- (6) 農作物に対して薬害が比較的少ない。本剤は多くの作物に対し薬害が比較的少なく、適用作物ならびに周辺作物への薬害を比較的懸念することなく使用することが出来る。

薬害試験の結果は次の通りである。

クロルフェナピル10%フロアブルの実用濃度(2000倍)及び倍量濃度(1000倍)で薬害の認められなかった作物・品種

#### 1) 適用作物

〔キャベツ〕 北ひかり、金系201、金春、湖水、秋徳、涼嶺41号、デライトボール、中早生2号、南宝、初秋、晩抽理想、深みどり、早生秋宝、YR錦秋、YR金春、YR青春

〔だいこん〕 大蔵大根、おしん、おせん、おふくろ、四月早生、耐病貴船、耐病総太り、耐病ひかり、耐病宮重、都西大根、長型春大根、天春大根、夏みの早生、福味、緑輝

〔はくさい〕 健春、春秋、はやぶさ、良慶、横綱2号

〔なす〕 黒陽、くろわし、千両、千両2号、大丸茄子、筑陽、早生大丸

〔きゅうり〕 シャープ1、新北星1号、貴婦人、トキワ光3号、トップグリーン、南極1号、南極2号

〔ピーマン〕 旭光、ししとう、新さきがけ、土佐グリーン(A, B)

〔レタス〕 オリμπピア、ステディ

〔ブロッコリー〕 シャスター、緑嶺

〔チンゲンサイ〕 青帝、平成

〔いちご〕 アイベリー、静宝、ダナー、とよのか、女峰、宝交早生、盛岡16号、麗紅、MO

〔りんご〕 王林、さんさ、千秋、つがる、ニュージョナゴールド、ふじ、北斗、陸奥

〔かき〕 次郎、刀根早生、平核無、富有、松本早生富有

〔かんきつ〕 青島早生

〔なし〕 幸水、新水、二十世紀

〔もも〕 大久保、大玉白鳳、清水白桃、白鳳

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

- 〔てんさい〕 モノエースS
- 〔茶〕 うんかい、おくみどり、かなやみどり、たかちほ、やえほ、やぶきた、やまかい、ゆたかみどり
- 〔きく〕 祝い酒、エリアス、陽炎、菊娘、コスチューム、秀芳の力、精雲、夏月夜、夏ボタン、夏休み、ニューフレンド、紅景色、ホワイトサマー
- 〔ストック〕 クリスマスチェリー、初藤、ホワイトワンダー
- 〔おうとう〕 佐藤錦、ナポレオン、南陽
- 〔あずき〕 大納言
- 〔ねぎ〕 浅黄系九条、九条、宏太郎、越谷黒一本太、東京黒昇、博多九条
- 〔トマト〕 端秀
- 〔ぶどう〕 甲斐路、キャンベルアーリー、巨峰、デラウェア、ネオマスカット、マスカットベリーA
- 〔かりん〕 しらぎく、スノークラウン
- 〔こまつな〕 東京小松菜、さおり
- 〔カーネーション〕 アルバイン、シルベストラ、ブルガノ、リアネ、リオ
- 〔ばら〕 エバーゴールド、カリーナ、カリネラ、ソニア、パスカリ、つるミセスPSデュボン、ファーストプライズ、ローラ、ブライダルピンク、ブルームーン、マジョリカ、マダムサチ、女神、ロイヤルハイネス

## 2) 周辺作物

- 〔いんげん〕 ステイヤー
- 〔えんどう〕 成駒30日
- 〔かぼちゃ〕 はやと
- 〔にんじん〕 稲荷5寸、インペレーター
- 〔メロン〕 アムス、アールスナイト、クレスト（春、春秋、夏）、アールスフェボリット（静岡温室夏F、静岡温室秋F）、クインシー、サンデー秋型、ティファニー、ニューメロン、プリンス
- 〔あんず〕 信州大実、新潟大実、平和
- 〔すもも〕 大石早生、サンタローザ、太陽
- 〔初刈り〕 アームキング、秀峰、レッドゴールド

## 3) クロルフェナピル10%フロアブルの倍量濃度（1000倍）で薬害の認められた作物・品種

- 〔はくさい〕 王将、オレンジクイーン、耐病50日、無双（いずれも幼苗期）

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

- [ピーマン] エース、カリフォルニアワンダー、京波、京みどり、ニューエース
- [ほうれんそう] おかめ、コマンチ、オスカー
- [メロン] アールスフェボリット(千葉F11号、31号)、クレスト(秋冬)、アンデス
- [ばら] 赤不二、かがやき、ランドラ
- [すいか] 縞王マックス、こだま
- [カーネーション] ロメオ

(7) 茶残臭試験

クロルフェナピル10%フロアブルの2000倍希釈液の残臭期間は7日である。

(8) ミツバチに対する毒性

本剤のミツバチに対する安全日数は10日であるので、散布10日後までミツバチの放虫は避けること。

(9) 天敵に対する毒性

本剤の天敵に対する残毒性は0～10日であるので、通常の散布方法においては比較的影響は少ないものと考えられる。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

#### IV. 適用及び使用上の注意

##### 1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

##### 10%クロルフェナピルフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロルフェナピル を含む 農薬の総 使用回数		
りんご	キンモンホリガ <sup>®</sup> 、ナミハダニ、 ハマキムシ類	2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	2回 以内		
	リンゴサビダニ、 ヨモギエダシヤク	2000～4000 倍							
もも	ミカンキイロアザミウマ	2000 倍		収穫7日 前まで					
	モモハダニ、ナミハダニ、 カンザワハダニ、モモサビダニ								
ネクタリン	ミカンキイロアザミウマ	2000～4000 倍		収穫14日 前まで					
	ナミハダニ、カンザワハダニ、 チャノキイロアザミウマ	2000 倍							
ぶどう	ナミハダニ、カンザワハダニ、 ハスモンヨトウ、トビイロトラガ <sup>®</sup> 、 モンキクロノメイガ <sup>®</sup> 、コガネムシ類	2000 倍		2回 以内					
	チャノキイロアザミウマ、 フタテヒメヨコハイ、 ミカンキイロアザミウマ、 ブドウサビダニ	2000～4000 倍							
かき	カキクダアザミウマ、ナミハダニ、 カンザワハダニ、イガ類	2000 倍		200～700 L/10a				3回 以内	2回 以内
	カキハタムシガ <sup>®</sup> 、 チャノキイロアザミウマ	2000～4000 倍							
	カキサビダニ	4000 倍							
なし	ナミハダニ、カンザワハダニ、 ニセナシサビダニ	2000～3000 倍		200～700 L/10a				3回 以内	2回 以内
	ヨモギエダシヤク、 チャノキイロアザミウマ	2000 倍							
かんきつ	ミカンキイロアザミウマ、 ヨモギエダシヤク	2000～4000 倍		200～700 L/10a				収穫前日 まで	2回 以内
	ミカンサビダニ、チャノホコリダニ、 チャノキイロアザミウマ	4000～6000 倍							
	ハスモンヨトウ、 リュウキュウミカンサビダニ、 カネタタキ、スグリゾウムシ	4000 倍							
いちじく	カンザワハダニ、 ヒラス <sup>®</sup> ハナアザミウマ	2000 倍	200～700 L/10a	2回 以内	2回 以内				
小粒核果類	オトウハダニ								
キウイフルーツ	キウイメヨコハイ								
マンゴー	チャノキイロアザミウマ								
ゴレンシ	カンザワハダニ								
バナナ	バナナツヤオサゾウムシ								

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロルフェニル を含む 農薬の総 使用回数
あずき	ハダニ類、ノメイガ類	2000 倍	100~300 L/10a	収穫 3 日 前まで	2 回 以内	散布	2 回 以内
豆類 (未成熟、 ただし、実えん どう、さやえん どうを除く)	ハダニ類						
実えんどう	ハスモンヨトウ						
さやえんどう	ハスモンヨトウ、ハダニ類						
きゅうり	ミカンキイロアザミウマ、ウリノメイガ ミナキイロアザミウマ、ハダニ類、 ウリハムシ	4000 倍		2 回 以内	3 回 以内		3 回 以内
うり類 (漬物用)	ミナキイロアザミウマ、ハダニ類						
すいか	ミナキイロアザミウマ ハダニ類、オオタバコガ						
にがうり かぼちゃ (日本かぼちゃ)	ミナキイロアザミウマ						
トマト ミニトマト	オオタバコガ、ナミハダニ、 ミカンキイロアザミウマ、 トマトサビダニ	2000 倍		3 回 以内	4 回 以内		4 回 以内
なす	ミナキイロアザミウマ、 ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ、 ヨトウムシ、チャホコリダニ、 オオタバコガ、ハスモンヨトウ、 テントウムシダマシ類						
ピーマン とうがらし類 (ししとうを除 く)	ミカンキイロアザミウマ、 ミナキイロアザミウマ、 オオタバコガ、ハダニ類						
ししとう	ヒラズハアザミウマ						
キャベツ	コナガ、アオムシ、 タマキソウワバ、ハスモンヨトウ、 ヨトウムシ、シロイモジヨトウ、 オオタバコガ、ハイダラノメイガ	2000 倍		2 回 以内	2 回 以内		
ブロッコリー	コナガ、アオムシ、 ヨトウムシ、ハスモンヨトウ						
茎ブロッコリー	アオムシ						
カリフラワー	コナガ						
メキャベツ 非結球メキャベツ なばな	ハスモンヨトウ		収穫 3 日 前まで	収穫 7 日 前まで			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回 数	使用 方法	クロルフェナピル を含む 農薬の総 使用回数				
はくさい	コナガ、アオムシ、 ヨトウムシ	2000 倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回 以内	散布	2回 以内				
非結球あぶらな 科葉菜類（こま つな、ひろしま なを除く）	コナガ			収穫3日前まで	1回		1回				
ひろしまな	コナガ、アオムシ			収穫14日前まで	2回 以内		2回 以内				
こまつな					1回		1回				
だいこん	アオムシ、コナガ、 ダイコンザルムシ			ハダニ類	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回 以内	散布、但し花穂の 発生期にはマルチ 被覆により散布 液が直接花穂 に飛散しない状 態で使用する	2回 以内		
かぶ	コナガ、ヨトウムシ、 ナメグサリハエ					収穫前日まで					
みょうが (花穂)	みょうが(花穂) の収穫前日まで 但し、花穂を収穫 しない場合にあつ ては開花期終了ま で										
みょうが (茎葉)	収穫前日まで										
いちご	ハダニ類、 ハスモンヨトウ、 シラミホコリダニ、 ミカンキイロアザミウマ					収穫前日まで					
ねぎ	シロイチモンヨトウ					収穫7日前まで					
オクラ	ハスモンヨトウ、 オタバコガ					収穫前日まで					
レタス	ハスモンヨトウ、 オタバコガ					収穫3日前まで				散布	1回
非結球レタス	オタバコガ、 ナメグサリハエ、ヨトウムシ										
モロヘイヤ	アザミウマ類					収穫14日前まで				1回	1回
あしたば	ウドノメイガ			収穫7日前まで	2回 以内	2回 以内					
やまのいも	カンザワハダニ、 カクイモガ			収穫前日まで							
やまのいも (むかご)				収穫3日前まで							
かんしょ	ハスモンヨトウ、ハダニ類			収穫前日まで							
はすいも(葉柄)	カンザワハダニ			収穫3日前まで							
さといも(葉柄)		収穫7日前まで									
さといも	カンザワハダニ、 ハスモンヨトウ	収穫7日前まで									

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロルフェニル を含む 農薬の総 使用回数
アスパラガス	ハダニ類、オオタバコガ、 ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、 ジユウシホシクビナガハムシ	2000 倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回 以内	散布	2回 以内
ふき	ハスモンヨトウ、ハダニ類			収穫7日前まで			
ふき (ふきのとう)				収穫90日前まで			
てんさい	ヨトウムシ、ハダニ類 カメノコハムシ			収穫7日前まで			
セルリー	ヨトウムシ			収穫14日前まで			
みつば	ハスモンヨトウ			収穫14日前まで 但し、伏せ込み栽培 は伏せ込み前まで	1回		1回
コリアンダー (葉)				収穫14日前まで	2回 以内		2回 以内
エンサイ				収穫3日前まで			
やなぎたで				収穫14日前まで	1回		1回
つるむらさき				収穫7日前まで			
すいぜんじな				ハダニ類、ヨトウムシ	収穫前日まで		2回 以内
よもぎ	シメキイロアザミウマ			収穫3日前まで	1回		1回
葉にんにく	ハダニ類			収穫14日前まで	2回 以内		2回 以内
つわぶき				収穫前日まで			
せんきゅう		収穫14日前まで					
とうき		収穫90日前まで					
たらのき		親株養成期 但し、収穫90日前 まで	3回 以内	3回 以内			
うど	シクラメンホリダニ	根株養成期 但し、収穫75日前 まで	2回 以内	2回 以内			
さんしょう (果実)	チャノキイロアザミウマ	収穫7日前まで					
食用プリムラ	ハスモンヨトウ、ハダニ類、 ヨトウムシ類、 シカンキイロアザミウマ	2000 倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回 以内	散布	2回 以内
食用金魚草	シカンキイロアザミウマ ヨトウムシ類 ハダニ類			収穫14日前まで			
食用なでしこ							
食用エキザカム							
食用せんにちこう							
食用トレニア	ハダニ類	収穫3日前まで	2回 以内	2回 以内			
食用パンジー							
食用ミニバラ							



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロルフェナピル を含む 農薬の総 使用回数
しゅんぎく しょうが	ハスモンヨトウ	2000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	2回 以内
にんじん	ヨトウムシ			2葉期まで 但し、収穫 14日前まで			
ほうれんそう	ホウレンソウウナギコナダニ	4000~6000 倍					1回
茶	チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノキイロアザミウマ、 カンザワハダニ、 チャノカサヒダニ、 チャノホコリダニ、 ヨモギエダシヤク、 チャノコカクモンハマキ、 マダラカサハラハムシ チャトゲコナジラミ		200~400 L/10a	摘採7日前 まで	2回 以内		2回 以内
食用ぎく きく(葉)	ミカンキイロアザミウマ、 ナミキイロアザミウマ、 ハダニ類、オオタバコガ、 アワダチソウウナギ、 ヨトウムシ類		100~300 L/10a	収穫7日前 まで			
ブルーベリー*	イカダ類	2000 倍	200~700 L/10a	収穫前日 まで	3回 以内		3回 以内
とうもろこし* ヤングコーン*	オオタバコガ		100~300 L/10a				
きく	ミカンキイロアザミウマ、 ナミキイロアザミウマ、 ハダニ類、オオタバコガ、 アワダチソウウナギ、 ヨトウムシ類		150~300 L/10a	発生初期	2回 以内		2回 以内
ストック	コカガ、アオムシ、 ヨトウムシ類、ハダニ類、 ミカンキイロアザミウマ						
花き類・観葉植 物(きく、スト ックを除く)	ヨトウムシ類、ハダニ類、 ミカンキイロアザミウマ						
しきみ	クスアチアキゾウムシ		200~700 L/10a				

\*適用拡大申請中(作物の追加)

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロルフェナピル を含む 農薬の総 使用回数
みかん	温室、ガラス 室等密閉 できる場所	ミカンキイロアザミウマ	300mL/10a	10L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	常温 煙霧	2回 以内
ぶどう		チャノキイロアザミウマ	150mL/10a	6L/10a	収穫14日 前まで			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

## 2. 使用上の注意事項

- (1) 使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出すこと。
- (2) ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、次のことに注意すること。
  - ①専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当っては病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
  - ②できるだけ日中の煙霧は避け、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態とすること。
- (3) ボルドー液と混用する場合は凝集することがあるので、本剤を調製した後にボルドー液と混合すること。
- (4) ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布すること。
- (5) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (6) 本剤は植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の表裏に十分に散布すること。
- (7) きゅうり、なす、はくさい、だいこん、非結球あぶらな科葉菜類、なばなおよびセルリーの幼苗期に使用すると薬害を生じることがあるので注意すること。
- (8) ピーマン、とうがらし類に使用する場合、品種により葉に褐点などの薬害を生じることがあるので予備散布により薬害のでないことを確認してから散布すること。
- (9) かき（刀根早生など）の着色期の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- (10) すいかに使用する場合、葉に薬害を生じることがあるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (11) にがうりの幼苗期には薬害を生じるので、定植前には使用しないこと。  
定植後のにがうりに使用する場合、葉に灰褐色などの斑点の薬害を生じることがあるので予備散布により薬害のでないことを確認してから散布すること。
- (12) 西洋かぼちゃ（黒皮栗、青皮栗、えびす、雪化粧、みやこ、黒皮甘栗、栗味、栗マロン、芳香等）には薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (13) ほうれんそうに使用する場合、葉に白化などの薬害を生じるおそれがあるので、必ず使用時期を守って使用すること。
- (14) ばら、食用ミニバラに本剤をはじめて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
- (15) カーネーションへの散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- (16) シクラメンに使用する場合、新葉に薬害を生じる場合があるので、薬害の出ないことを事前確認してから散布すること。
- (17) 周辺の作物にかかると薬害を生じる場合があるので、かからないよう十分注意して散布すること。
- (18) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (19) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけるこ

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

と。

- ③ 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (20) マルハナバチに対して影響があるので注意すること。
- (21) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

3. 水産動植物に有害な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

## V. 残留性および水質汚濁性

### 1. 作物残留性試験

#### (1) 分析法の原理と操作概要

#### (2) 分析対象の化合物

・親化合物 (クロルフェナピル)

4-ブromo-2-(4-クロロフェニル)-1-エトキシメチル-5-トリフルオロメチルピロール-3-カルボニトリル

$C_{15}H_{11}BrClF_3N_2O$  MW : 407.6

#### (3) 主要代謝物の分析

作物残留に係る保留基準および残留農薬基準の規制対象化合物は、親化合物 (クロルフェナピル) となった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

(4) 残留試験結果：

(作物残留性に関する抄録の目次)

分析対象 化合物	作物名	備考	抄録頁
クロル フェナ ピル (親 化合 物)	1. りんご	最終散布後 21,28,42 日の残留値	a-30
	2. だいこん (根部)		a-30
	3. だいこん (葉部)		a-30
	4. キャベツ	最終散布後 7,14,21 日の残留値	a-31
	5. なす		a-31
	6. きゅうり		a-31
	7. はくさい		a-31
	8. 茶 (荒茶)		a-32
	9. 茶 (浸出液)		a-32
	10. りんご	最終散布後 3,7,14 日の残留値	a-33
	11. かき		a-33
	12. いちご		a-33
	13. なし		a-33
	14. レタス		a-34
	15. てんさい		a-34
	16. ブロッコリー		a-34
	17. みかん (果肉)	使用方法：散布	a-35
	18. みかん (果皮)	使用方法：散布	a-35
	19. なつみかん		a-36
	20. ゆず		a-36
	21. もも (果肉)		a-37
	22. もも (果皮)		a-37
	23. ピーマン		a-37
	24. チンゲンサイ		a-37
	25. オクラ		a-38
	26. おうとう		a-39
	27. あずき		a-39
	28. ねぎ (葉ねぎ)		a-39
	29. ねぎ (根深ねぎ)		a-39
	30. トマト		a-40
	31. ぶどう		a-40
	32. さといも		a-40
	33. アスパラガス		a-40
	34. ふき		a-41
	35. いちじく		a-42
	36. すいか		a-42
	37. こまつな		a-43
	38. みょうが		a-43
	39. みかん (果実)	使用方法：常温煙霧	a-44
	40. みかん (果皮)	使用方法：常温煙霧	a-44
	41. いちご		a-45
	42. ししとう		a-45
	43. 伏見甘長とうがらし		a-45
	44. モロヘイヤ		a-46
	45. あしたば		a-46

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

分析対象 化合物	作物名	備考	抄録頁
クロ ル フ エ ナ ピ ル  (親 化 合 物)	46. カリフラワー		a-46
	47. やまのいも		a-46
	48. かんしょ		a-47
	49. はすいも (葉柄)		a-47
	50. さといも (葉柄)		a-47
	51. ひろしまな		a-47
	52. ネクタリン		a-48
	53. さんしょう (果実)		a-48
	54. ぶどう	使用方法: 常温煙霧	a-48
	55. サラダ菜		a-49
	56. リーフレタス		a-49
	57. ミニトマト		a-49
	58. りんご	最終散布後 1,7,21 日の残留値	a-49
	59. かぶ (葉部)		a-50
	60. かぶ (根部)		a-50
	61. 未成熟えんどう		a-50
	62. すいぜんじな		a-51
	63. 非結球メキャベツ (えき芽葉)		a-51
	64. 非結球メキャベツ (本葉)		a-51
	65. みずな		a-51
	66. 山東菜		a-52
	67. 茎ブロッコリー		a-52
	68. なばな		a-52
	69. マンゴー		a-53
	70. ゴレンシ		a-53
	71. メキャベツ		a-53
	72. 葉にんにく		a-53
	73. みつば		a-54
	74. セルリー		a-54
	75. コリアンダー		a-54
	76. ししとう		a-54
	77. にがうり		a-55
	78. エンサイ		a-55
79. やなぎたで		a-55	
80. つわぶき		a-55	
81. やまのいも (むかご)		a-56	
82. 食用ぎく		a-56	
83. 食用プリムラ		a-56	
84. かぼちゃ		a-56	
85. バナナ		a-57	
86. よもぎ		a-57	
87. リーフレタス	上記No.56 の追試	a-57	
88. サラダ菜	上記No.55 の追試	a-57	
89. かぶ (根部)	上記No.60 の追試	a-58	
90. かぶ (葉部)	上記No.59 の追試	a-58	
91. すもも		a-58	
92. つるむらさき		a-59	
93. せんきゅう		a-59	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

(作物残留性に関する抄録の目次、続き)

分析対象 化合物	作物名	備考	抄録頁
クロルフェナピル (親化合物)	94.とうき		a-59
	95.食用ミニバラ		a-59
	96.キャベツ	最終散布後 1,3,14 日の残留値	a-60
	97.キウイフルーツ		a-60
	98.なす		a-61
	99.うめ		a-61
	100.えだまめ		a-61
	101.さやいんげん		a-61
	102.しゅんぎく		a-62
	103.しょうが		a-62
	104.にんじん		a-62
	105.はくさい		a-62
	106.ブロッコリー		a-63
	107.ほうれんそう		a-63
	108.レタス		a-63
	109.たらのき		a-64
	110.はまぼうふう		a-64
	111.うど		a-64
	112.ふきのとう		a-64
	113.きく		a-65
114.きゅうり	上記 No.6 の追試	a-65	
115.ミニトマト	上記 No.57 の追試	a-65	
116.なし		a-66	
117.ブルーベリー		a-66	
118.ヤングコーン		a-67	
119.未成熟とうもろこし		a-67	
120.とうもろこし (子実)		a-67	

分析対象 化合物	作物名	備考	抄録頁
(代謝物) <参考>	りんご	最終散布後 21,28,42 日の残留値	a-69
	なす		a-69
	キャベツ		a-69
	だいこん (根部)		a-70
	だいこん (葉部)		a-70
	きゅうり		a-70
	茶 (荒茶)		a-71
	茶 (浸出液)		a-71
	はくさい		a-71
	りんご	最終散布後 3,7,14 日の残留値	a-72
(代謝物) <参考>	キャベツ		a-73
	だいこん (根部)		a-73



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェナピル		クロルフェナピル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
りんご (露地) (果実) 平成4年度	フロアブル (10%)  2000倍 500L/10a  散布	岩手園試  (ふじ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				21	0.29	0.28	0.291	0.291
			2	28	0.23	0.22	0.220	0.219
				42	0.05	0.05	0.053	0.052
		長野植防 須坂研  (ふじ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				21	0.10	0.10	0.112	0.108
			2	28	0.07	0.07	0.063	0.062
				42	0.06	0.06	0.058	0.058
だいこん (露地) (根部) 平成4年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a  散布	日植防研  (耐病 宮重)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				7	0.02	0.02	0.013	0.012
			2	14	<0.01	<0.01	0.014	0.014
				21	<0.01	<0.01	0.005	0.005
		長野植防 須坂研 (青首 宮重)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				7	0.03	0.03	0.019	0.019
			2	14	0.02	0.02	0.010	0.010
				21	0.01	0.01	0.015	0.015
だいこん (露地) (葉部) 平成4年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a  散布	日植防研  (耐病 宮重)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	1.18	1.14	1.18	1.16
			2	14	0.27	0.27	0.17	0.17
				21	0.03	0.02	0.05	0.05
		長野植防 須坂研 (青首 宮重)	0	—	0.02	0.02	0.02	0.02
				7	3.26	3.22	2.39	2.38
			2	14	1.20	1.18	1.44	1.42
				21	0.38	0.38	0.38	0.38

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロルフェナピル		クロルフェナピル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
キャベツ (露地) (葉球) 平成4年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a	日植防研  (金系 201号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
				2	7	0.07	0.06	0.125	0.124
					14	0.01	0.01	0.038	0.038
					21	<0.01	<0.01	0.025	0.024
	長野植防 須坂研 (YRSE)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			2	7	0.22	0.22	0.151	0.150	
				14	0.15	0.14	0.181	0.180	
				21	0.12	0.12	0.120	0.119	
なす (施設) (果実) 平成4年度	フロアブル (10%) 2000倍 300L/10a 散布	日植防研 高知  (竜馬)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
				2	1	0.26	0.26	0.326	0.324
					3	0.20	0.20	0.202	0.202
					7	0.10	0.10	0.102	0.101
	フロアブル (10%) 2000倍 200L/10a 散布	日植防研 宮崎  (黒陽)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
				2	1	0.13	0.12	0.165	0.164
					3	0.06	0.06	0.109	0.109
					7	0.03	0.03	0.035	0.034
きゅうり (施設) (果実) 平成4年度	フロアブル (10%)  2000倍 300L/10a	日植防研  (シャープ ワ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
				2	1	0.11	0.11	0.168	0.166
					3	0.05	0.05	0.086	0.084
					7	0.05	0.05	0.074	0.073
	2000倍 300L/10a 散布	日植防研 宮崎  (北進)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
				2	1	0.11	0.11	0.120	0.118
					3	0.11	0.10	0.107	0.105
					7	0.07	0.07	0.084	0.082
はくさい (露地) (莖葉) 平成6年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a	日植防研  (春蒔 極早生)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
				2	7	0.06	0.06	0.087	0.086
					14	0.15	0.14	0.037	0.034
					21	0.02	0.02	0.008	0.007
	2000倍 200L/10a 散布	長野植防 南信研  (はるさか り)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
				2	7	0.09	0.09	0.047	0.044
					14	0.03	0.02	0.020	0.019
					21	0.01	0.01	0.016	0.016

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロルフェニール		クロルフェニール		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
茶 (露地) (荒茶) 平成4年度	フロアブル (10%)  2000倍 400L/10a	神奈川県試 津久井分場  (やぶきた)	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04	
				7	28.9	27.9	31.4	30.8	
				2	14	19.1	19.0	19.6	18.8
					21	12.7	12.6	13.2	12.7
茶 (簡易被覆) (荒茶) 平成4年度	2000倍 400L/10a  散布	奈良農試 茶業分場  (やぶきた)	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04	
				7	15.9	15.8	15.0	14.8	
				2	14	3.74	3.69	3.85	3.80
					21	0.88	0.86	0.89	0.88
茶 (露地) (浸出液) 平成4年度	フロアブル (10%)  2000倍 400L/10a	神奈川県試 津久井分場  (やぶきた)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
				7	0.33	0.32	0.36	0.36	
				2	14	0.28	0.27	0.28	0.27
					21	0.19	0.18	0.17	0.17
茶 (簡易被覆) (浸出液) 平成4年度	2000倍 400L/10a  散布	奈良農試 茶業分場  (やぶきた)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
				7	0.20	0.20	0.23	0.22	
				2	14	0.06	0.06	0.06	0.06
					21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
茶 (簡易被覆) (荒茶) 平成5年度	フロアブル (10%)  2000倍 400L/10a	京都茶研  (おくみどり)	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04	
				7	20.6	20.3	18.8	18.8	
				1	14	18.4	18.2	15.5	15.0
					21	3.88	3.82	3.83	3.82
	2000倍 400L/10a  散布	高知農技 茶業試  (やぶきた)	0	—	0.03	0.03	<0.04	<0.04	
				1	7	28.7	28.6	26.5	26.0
					14	8.42	8.14	7.82	7.80
				茶 (簡易被覆) (浸出液) 平成5年度	フロアブル (10%)  2000倍 400L/10a	京都茶研  (おくみどり)	0	—	<0.02
7	0.38	0.38	0.24					0.24	
1	14	0.31	0.30					0.18	0.18
	21	0.09	0.08					0.04	0.04
2000倍 400L/10a  散布	高知農技 茶業試  (やぶきた)	0	—		<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			1		7	0.64	0.64	0.39	0.37
					14	0.20	0.20	0.11	0.10

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤 型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェニル		クロルフェニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
りんご (無袋) (果実) 平成6年度	フロアブル (10%)  2000倍 500L/10a  散布	福島植防  (ふじ)	日本食品分析センター		三菱化学安全科学研			
			0	—	<0.01	<0.01	0.052	0.052
			2	3	0.35	0.34	0.258	0.258
				7	0.32	0.32	0.350	0.338
		14		0.39	0.38	0.310	0.302	
		長野植防 須坂研  (ふじ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
			2	3	0.31	0.30	0.406	0.400
				7	0.34	0.34	0.420	0.420
				14	0.29	0.28	0.270	0.269
		かき (無袋) (果実) 平成7年度	フロアブル (10%)  2000倍 500L/10a  散布	滋賀農試 園芸分場  (富有)	0	—	<0.01	<0.01
2	7				0.39	0.38	0.64	0.63
	14				0.39	0.38	0.39	0.39
	21				0.36	0.35	0.28	0.28
	28			0.22	0.22	0.31	0.30	
徳島植防  (富有)	0			—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	2			7	0.24	0.24	0.24	0.23
				14	0.15	0.14	0.14	0.14
				21	0.09	0.09	0.09	0.09
28				0.06	0.06	0.05	0.05	
いちご (施設) (果実) 平成8年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a  散布	埼玉植防 (女峰)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	22	0.04	0.04	0.03	0.03
		奈良農試 (アスカエイブ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	57	0.02	0.02	0.03	0.03
なし (露地) (果実) 平成8年度	フロアブル (10%)  2000倍 500L/10a  散布	福島植防  (幸水)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	0.36	0.35	0.33	0.32
				14	0.27	0.26	0.32	0.32
				21	0.17	0.17	0.18	0.18
		千葉原種 農場 千葉分場  (幸水)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	0.28	0.28	0.22	0.21
				14	0.23	0.22	0.22	0.22
				21	0.13	0.12	0.14	0.14

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農業株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロルフェナピル		クロルフェナピル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
レタス (露地) (茎葉) 平成8年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a  散布	岩手植防  (マイルタス)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				2	7	0.13	0.13	0.21	0.21
					14	0.01	0.01	0.02	0.02
					21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	長野営農 技術センター  (極早生シスコ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			2	7	0.05	0.05	0.09	0.09	
				14	0.01	0.01	0.02	0.02	
				21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
てんさい (露地) (根部) 平成8年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a  散布	北海道植防 札幌市豊平区  (モノエースS)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				2	7	0.02	0.02	0.01	0.01
					14	0.02	0.02	0.12	0.12
					21	<0.01	<0.01	0.01	0.01
	北海道植防 河東郡音更町  (モノエースS)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			2	7	0.04	0.04	0.03	0.03	
				14	0.05	0.05	0.02	0.02	
				21	<0.01	<0.01	0.01	0.01	
ブロッコリ ー (露地) (花蕾) 平成8年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a  散布	群馬園試  (緑嶺)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
				2	7	0.10	0.10	0.174	0.174
					14	0.07	0.06	0.075	0.070
					21	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
	日植防研 宮崎  (ハイツ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			2	7	0.34	0.32	0.432	0.420	
				14	0.25	0.25	0.320	0.318	
				21	0.08	0.08	0.131	0.122	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロルフェナピル		クロルフェナピル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
温州みかん (施設) (果肉) 平成7年度	フロアブル (10%) 2000倍 500L/10a 散布	愛知農総 園研蒲郡 (宮川 早生)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
			2	1		0.07	0.07	<0.005	<0.005
				3		0.04	0.04	<0.005	<0.005
				7		0.03	0.03	<0.005	<0.005
		高知農技 七果樹試 (興津 早生)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
			2	1		0.03	0.03	<0.005	<0.005
				3		0.01	0.01	<0.005	<0.005
				7		<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
温州みかん (施設) (果皮) 平成7年度	フロアブル (10%) 2000倍 500L/10a 散布	愛知農総 園研蒲郡 (宮川 早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.005	<0.005	
			2	1		2.34	2.24	2.26	2.20
				3		1.73	1.72	1.44	1.42
				7		1.26	1.22	1.13	1.12
		高知農技 七果樹試 (興津 早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.005	<0.005	
			2	1		0.67	0.66	0.76	0.74
				3		0.60	0.60	0.68	0.68
				7		0.43	0.42	0.54	0.52

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェニル		クロルフェニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
なつみかん (露地) (果実全体) 平成9年度	フロアブル (10%) 2000倍 500L/10a 散布 [社内分析 の果実は果 肉と果皮の 重量比より 算出]	山口萩柑 きつ試 (川野ツ タガイ)	0	—	<0.01	<0.01		
				1	0.19	0.19	0.35	0.32
			2	3	0.26	0.25	0.34	0.34
				7	0.23	0.22	0.36	0.35
		大分柑橘 津久井分 (川野ツ タガイ)	0	—	<0.01	<0.01		
				1	0.57	0.56	0.60	0.59
			2	3	0.66	0.66	0.73	0.73
				7	0.65	0.64	0.67	0.66
なつみかん (露地) (果肉) 平成9年度	フロアブル (10%) 2000倍 500L/10a 散布	山口萩柑 きつ試 (川野ツ タガイ)	0	—			<0.01	<0.01
				1			<0.01	<0.01
			2	3			<0.01	<0.01
				7			<0.01	<0.01
		大分柑橘 津久井分 (川野ツ タガイ)	0	—			<0.01	<0.01
				1			<0.01	<0.01
			2	3			<0.01	<0.01
				7			<0.01	<0.01
なつみかん (露地) (果皮) 平成9年度	フロアブル (10%) 2000倍 500L/10a 散布	山口萩柑 きつ試 (川野ツ タガイ)	0	—			<0.05	<0.05
				1			1.09	1.05
			2	3			1.09	1.09
				7			1.16	1.14
		大分柑橘 津久井分 (川野ツ タガイ)	0	—			<0.05	<0.05
				1			1.87	1.84
			2	3			2.32	2.32
				7			2.02	1.98
ゆず (露地) (果実) 平成9年度	フロアブル (10%) 2000倍 500L/10a 散布	埼玉植防 (本ゆず)	0	—			<0.01	<0.01
				1			0.18	0.18
			2	3			0.26	0.26
				7			0.13	0.12
		高知農技 山間 (在来種)	0	—			<0.01	<0.01
				1			0.42	0.42
			2	3			0.39	0.38
				7			0.50	0.48

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロルフェニル		クロルフェニル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
もも (露地) (果肉) 平成9年度	フロアブル (10%) 2000倍 500L/10a 散布	福島植防 (あかつ き)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		岐阜植防 (八幡 白鳳)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
もも (露地) (果皮) 平成9年度	フロアブル (10%) 2000倍 500L/10a 散布	福島植防 (あかつ き)	0	—	<0.04	<0.04	<0.02	<0.02	
				2	1	2.33	2.23	2.14	2.05
					3	3.56	3.45	3.57	3.52
					7	3.14	3.10	2.66	2.63
		岐阜植防 (八幡 白鳳)	0	—	<0.04	<0.04	<0.02	<0.02	
				2	1	1.30	1.26	1.74	1.71
					3	2.27	2.22	1.91	1.82
					7				
ピーマン (施設) (果実) 平成8年度	フロアブル (10%) 2000倍 200L/10a 散布	岩手植防 (京ゆた か)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				2	1	0.20	0.20	0.18	0.18
					3	0.14	0.14	0.10	0.10
					7	0.07	0.07	0.05	0.04
		日植防研 高知 (土佐 姫)	0	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	
				2	1	0.36	0.36	0.35	0.34
					3	0.36	0.36	0.27	0.26
					7	0.23	0.23	0.20	0.20
チンゲンサイ (施設) (葉茎) 平成9年度	フロアブル (10%) 2000倍 200L/10a 散布	長野農 総試 (青帝)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				1	7	1.38	1.38	1.35	1.30
					14	0.17	0.17	0.12	0.12
					21	0.03	0.03	0.01	0.01
		静岡農試 (青帝)	0	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	
				1	7	0.26	0.26	0.55	0.52
					14	0.09	0.08	0.12	0.12
					21	0.02	0.02	0.01	0.01



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					公的分析機関					
					クロルフェナピル		クロルフェナピル			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
オクラ (露地) (果実) 平成9年度	フロアブル (10%)  2000倍 150L/10a  散布	徳島農試  (ア-リー ファイブ <sup>®</sup> )								
					0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
					1	1	0.18	0.18	0.17	0.16
						2	0.09	0.09	0.11	0.10
						3	0.07	0.07	0.06	0.06
					2	1	0.20	0.20	0.23	0.22
						2	0.10	0.10	0.15	0.14
						3	0.06	0.06	0.07	0.06
					3	1	0.15	0.15	0.15	0.15
						2	0.08	0.08	0.10	0.10
3	0.05	0.05	0.04	0.04						
オクラ (露地) (果実) 平成9年度	フロアブル (10%)  2000倍 150L/10a  散布	高知農技 センター  (ア-リー ファイブ <sup>®</sup> )								
					0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
					1	1	0.26	0.26	0.26	0.26
						2	0.18	0.18	0.21	0.20
						3	0.08	0.08	0.11	0.10
					2	1	0.26	0.25	0.30	0.30
						2	0.18	0.18	0.21	0.20
						3	0.10	0.10	0.10	0.10
					3	1	0.22	0.22	0.25	0.24
						2	0.20	0.19	0.17	0.16
3	0.09	0.09	0.11	0.10						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェナピル		クロルフェナピル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
おうとう  (施設) (果実)  平成 10 年度	フロアブル (10%)  2000 倍 500L/10a  散布	岩手植防  (香夏錦)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	0.23	0.22	0.32	0.32
			2	14	0.20	0.20	0.29	0.29
				21	0.21	0.21	0.32	0.32
		新潟農総 研園研セ (佐藤錦)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				14	0.10	0.10	0.13	0.12
2	22	0.03	0.03	0.02	0.02			
	あずき  (露地) (乾燥子実)  平成 10 年度	フロアブル (10%)  2000 倍 200L/10a  散布	北海道 中央農試  (寿小豆)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01
3					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
2				7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
山形農研 センター (ベニガ イ ゴ)			0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
ねぎ (葉ねぎ)  (露地) (茎葉)  平成 10 年度	フロアブル (10%)  2000 倍 200L/10a  散布	三重科学 技振セ (九条 浅黄)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	0.85	0.83	1.32	1.30
			2	14	0.36	0.36	0.73	0.72
				21	0.08	0.08	0.11	0.11
		兵庫植防 (寿黒 千本)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	0.31	0.30	0.74	0.74
			2	14	0.23	0.22	0.54	0.52
				21	0.26	0.26	0.32	0.32
ねぎ (根深ねぎ)  (露地) (茎葉)  平成 10 年度	フロアブル (10%)  2000 倍 200L/10a  散布	埼玉植防  (長宝)	0	—			<0.01	<0.01
				7			0.91	0.90
			2	14			0.27	0.27
				21			0.12	0.12
		愛知植防  (越津)	0	—			<0.01	<0.01
				7			0.82	0.82
			2	14			0.20	0.20
				21			0.04	0.04

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロルフェナピル		クロルフェナピル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
トマト (施設) (果実) 平成10年度	フロアブル (10%)  2000倍 200L/10a  散布	長野中信 農試 (桃太郎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				1	0.05	0.04	0.09	0.09	
				2	3	0.02	0.02	0.06	0.05
				7	0.02	0.02	0.05	0.04	
	日植防研 高知 (ハウス 桃太郎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			1	0.04	0.04	0.07	0.06		
			2	3	0.05	0.05	0.13	0.12	
			7	0.05	0.05	0.10	0.08		
ぶどう (施設) (果実) 平成9年度	フロアブル (10%)  2000倍 350L/10a  散布	長野植防 (巨峰)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				14	0.03	0.03	0.04	0.04	
				2	21	0.06	0.06	0.05	0.04
				30	0.04	0.04	0.08	0.08	
	滋賀農試 (テラウエ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			14	0.67	0.67	0.66	0.66		
			2	21	0.72	0.72	0.61	0.60	
			30	0.74	0.74	0.85	0.84		
ぶどう (施設) (果実) 平成11年度	フロアブル (10%) 2000倍 333L/10a 散布	大阪農林 技術センター (テラウエ)	0	—	<0.04	<0.04	<0.03	<0.03	
				14	0.69	0.68	0.94	0.92	
				2	21	2.13	2.09	2.40	2.39
				30	1.59	1.58	1.80	1.76	
				45	1.39	1.32	1.75	1.74	
	フロアブル (10%) 2000倍 300L/10a 散布	岡山農業 総合センター 農試 (ヒコネ)	0	—	<0.04	<0.04	<0.03	<0.03	
				14	0.84	0.83	0.63	0.60	
				2	21	0.72	0.70	0.77	0.74
				30	0.69	0.68	0.63	0.60	
				45	0.37	0.36	0.39	0.39	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロルフェナピル		クロルフェナピル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
さといも (露地) (塊茎) 平成 11 年	フロアブル (10%)  2000 倍	岐阜農技 研 (土垂れ 系)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
さといも (露地) (塊茎) 平成 10 年	200L/10a  散布	愛媛農試 (女 早生)	0	—	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
				2	3	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
					7	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
					14	0.006	0.006	<0.01	<0.01
アスパラガ ス (施設) (茎) 平成 12 年	フロアブル (10%)  2000 倍	奈良農業 技術センター (ウエルカム)	0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05	
				2	1	0.15	0.15	0.21	0.20
					3	0.05	0.05	0.08	0.08
					7	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
	300L/10a  散布	長崎総合 農林試 (ウエルカム)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				2	1	<0.01	<0.01	0.03	0.02
					3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ふき (施設) (葉柄) 平成 11 年	フロアブル (10%)  2000 倍	東海市 (愛知早 生7)	0	—	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	
				2	7	0.18	0.18	0.24	0.22
					14	0.10	0.10	0.12	0.12
					21	0.08	0.08	0.08	0.08
	150L/10a  散布	知多市 (愛知早 生7)	0	—	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	
				2	7	0.28	0.28	0.38	0.34
					14	0.17	0.17	0.21	0.20
					21	0.15	0.15	0.20	0.20

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成分 量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)							
					公的分析機関		社内分析機関					
					クロルフェニル		クロルフェニル					
					最高値	平均値	最高値	平均値				
いちじく (露地) (可食部) 平成10年	フロアブル (10%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農総 試  (榎井 ドーフィン)	0	—	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05				
					2	1	0.08	0.08	0.21	0.20		
						3	0.05	0.05	0.15	0.14		
						7	0.02	0.02	<0.05	<0.05		
		奈良農 試  (榎井 ドーフィン)	0	—	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05				
					2	1	0.38	0.38	0.49	0.48		
						3	0.28	0.26	0.47	0.46		
						7	0.19	0.18	0.32	0.32		
いちじく (露地) (可食部) 平成13年	フロアブル (10%) 2000倍 200L/10a 散布	奈良農 技センター  (榎井 ドーフィン)	0	—	<0.03	<0.03	<0.05	<0.05				
					2	1	0.46	0.45	0.47	0.45		
						3	0.46	0.44	0.36	0.34		
						7	0.16	0.16	0.12	0.12		
						日植防研  (紅 こだま)	0	—	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
									2	1	<0.005	<0.005
3	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01								
7	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01								
すいか (施設) (果肉) 平成12年	フロアブル (10%) 2000倍 200L/10a 散布	日植防研  (紅 こだま)	0	—	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01				
					2	1	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01		
						3	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01		
		日植防研 高知  (夜空)	0	—	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01				
					2	1	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01		
						3	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01		
7	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01								

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成分 量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		公的分析機関	
					クロルフェニル		クロルフェニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
こまつな (施設) (茎葉) 平成12年	フロアブル (10%) 2000倍	神奈川県 農総研 (夏楽天)	0	—	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			1	3	2.35	2.33	2.91	2.84
				7	2.53	2.46	2.66	2.63
				14	0.72	0.71	0.76	0.74
				21	0.21	0.20	0.13	0.12
	200L/10a 散布	京都 農総研 (みすぎ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			1	3	2.29	2.28	2.09	2.06
				7	0.79	0.78	1.28	1.24
				14	0.38	0.37	0.40	0.39
				21	0.14	0.14	0.19	0.19
こまつな (施設) (茎葉) 平成11年	フロアブル (10%) 2000倍 200L/10a 散布	神奈川県 農総研 (夏楽天)	0	—			<0.01	<0.01
			2	7			1.70	1.70
				14			0.25	0.24
			1	7			1.24	1.22
				14			0.14	0.14
			みょうが (施設) (花穂) 平成13年	フロアブル (10%) 2000倍	高知農技 センター (南国市) (夏ミょうが)	0	—	<0.01
2	1	<0.01				<0.01	<0.05	<0.05
	3	<0.01				<0.01	<0.05	<0.05
	7	<0.01				<0.01	<0.05	<0.05
300L/10a 散布	高知農技 センター (須崎市) (夏ミょうが)	0		—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
		2		1	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
				3	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
				7	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
				7	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤 型 (有効成分 量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (分析値, ppm)				
					公的分析機関		公的分析機関		
					クロルフェニル		クロルフェニル		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
みかん (施 設)  (果 肉) 平成 12 年	7077 <sup>o</sup> ル (10%) 33.3 倍 10L/10a [原液 300ml/ 10a]	香川農試  (宮川 早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
				2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
					3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
					7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		香川農試 府中分場 (興津 早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
				2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
					3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
					7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
みかん (施 設)  (果 皮) 平成 12 年	常温煙霧	香川農試  (宮川 早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	
				2	1	1.20	1.20	3.76	3.49
					3	0.97	0.94	4.23	3.90
					7	0.91	0.90	3.78	3.52
		香川農試 府中分場 (興津 早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	
				2	1	0.46	0.46	1.76	1.69
					3	0.42	0.42	1.75	1.69
					7	0.65	0.63	1.64	1.54

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					公的分析機関			社内分析機関		
					クロルフェニル			クロルフェニル		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
いちご (施設) (果実) 平成 15 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 群馬: 200L/10a 岐阜: 250L/10a 散布	群馬植防 (さちの か)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01
				1	0.30	0.30	0.30	0.19	0.19	0.19
			2	3	0.19	0.19	0.19	0.13	0.13	0.13
				7	0.12	0.12	0.12	0.11	0.10	0.10
		岐阜植防 (女峰)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01
				1	1.57	1.52	1.54	1.13	1.12	1.12
			2	3	1.13	1.08	1.10	0.77	0.76	0.76
				7	0.97	0.93	0.95	0.73	0.72	0.72
ししとう (施設) (果実) 平成 15 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	和歌山 植防 (きしゅう ししとう)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				1	0.91	0.90	0.90	0.74	0.71	0.72
			2	3	0.75	0.70	0.72	0.59	0.58	0.58
				7	0.33	0.31	0.32	0.26	0.26	0.26
		宮崎 総農試 (つばき グリーン)	0	—	0.12	0.10	0.11	0.10	0.10	0.10
				1	2.39	2.31	2.35	1.91	1.86	1.88
			2	3	2.19	2.04	2.12	1.95	1.80	1.88
				7	1.38	1.33	1.36	1.21	1.15	1.18
伏見甘長 とうがらし (施設) (果実) 平成 15 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	鳥取園試 (三宝)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
				1	0.48	0.46	0.47			
			2	3	0.52	0.50	0.51			
				7	0.38	0.37	0.38			
		徳島阿南 農普センター (伏見甘長 とうがらし)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
				1	0.68	0.68	0.68			
			2	3	0.56	0.55	0.56			
				7	0.47	0.47	0.47			

空欄は分析値なし



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)								
					分析機関			分析機関					
					クロルフェニル			クロルフェニル					
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値			
モロヘイヤ (施設) (茎葉) 平成 15 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 松坂: 260L/10a 多気: 160L/10a 散布	三重科学 振セ農研 松坂 (一)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05						
				1	7	1.91	1.90	1.90					
					14	0.36	0.35	0.36					
			1	21	<0.05	<0.05	<0.05						
				三重科学 振セ農研 多気 (一)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05				
			1			7	1.33	1.28	1.30				
		14				0.16	0.15	0.16					
		1	21		<0.05	<0.05	<0.05						
			あしたば (露地) (茎葉) 平成 15 年度		東京農試 八丈島園 技セ (一)	0	—	<0.3	<0.3	<0.3			
		2					3	1.3	1.1	1.2			
				7			0.7	0.6	0.6				
		2		14		0.4	0.3	0.4					
東京農試 八丈島園 技セ (一)	0			—		<0.3	<0.3	<0.3					
		2		3		1.9	1.8	1.8					
				7	<0.3	<0.3	<0.3						
	2	14		<0.3	<0.3	<0.3							
		カリフラワー (露地) (花蕾) 平成 10 年度		フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	茨城農総 セ農研 (スノークラウン)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	0.006	<0.005	-
	2						3	0.39	0.38	0.38	0.216	0.178	0.197
7							0.11	0.10	0.10	0.062	0.050	0.056	
2	14					0.03	0.03	0.03	0.013	0.012	0.012		
	千葉暖地 園試 (スノーマチ)		0			—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	<0.005	
2						3	0.10	0.09	0.10	0.159	0.148	0.154	
					7	0.12	0.11	0.12	0.034	0.033	0.034		
2			13		<0.01	<0.01	<0.01	0.007	0.006	0.006			
			やまのいも (露地) (塊茎) 平成 15 年度		フロアブル (10%) 2000 倍 奈良: 300L/10a 鳥取: 500L/10a 散布	奈良農技 セ (大和黑皮)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
2								1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	3							<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
2	7						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
	鳥取園試 (在来種)	0		—			<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
2				1			<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				3		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
2		7		<0.01		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニル			クロルフェニル		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
かんしょ (露地) (塊根) 平成 15 年度	7077 <sup>g</sup> /L (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	日植防研 (紅あず ま)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		日植防研 宮崎 (宮崎紅)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
はすいも (施設) (葉柄) 平成 15 年度	7077 <sup>g</sup> /L (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	高知農技 セ (在来種)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02			
			2	1	0.02	0.02	0.02			
				3	0.06	0.05	0.06			
				7	0.02	<0.02	-			
はすいも (施設) (葉柄) 平成 16 年度	7077 <sup>g</sup> /L (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	高知農技 セ (在来種)	0	—	<0.04	<0.04	<0.04			
			2	1	0.06	0.06	0.06			
				3	<0.04	<0.04	<0.04			
				7	0.08	0.08	0.08			
さといも (施設) (葉柄) 平成 15 年度	7077 <sup>g</sup> /L (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	大阪府泉 佐野市 (唐芋)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02			
			2	3	0.53	0.48	0.50			
				7	0.21	0.20	0.20			
				14	0.29	0.28	0.28			
		石川県 金沢市 (八頭)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02			
			2	3	0.08	0.08	0.08			
				7	0.06	0.06	0.06			
				14	0.06	0.05	0.06			
ひろしまな (露地) (茎葉) 平成 14 年度	7077 <sup>g</sup> /L (10%) 2000 倍 150L/10a 散布	島根農試 (2号広島菜)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	3	1.04	1.03	1.04	1.06	1.05	1.06
				7	0.52	0.52	0.52	0.60	0.58	0.59
				14	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04
		広島農技 セ (2号広島菜)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	2.48	2.29	2.38	2.75	2.74	2.74
				7	0.48	0.46	0.47	0.99	0.95	0.97
				14	0.10	0.09	0.10	0.10	0.10	0.10

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニル			クロルフェニル		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
ネクタリン (露地) (果実) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 400L/10a 散布	山梨果試 (黎明)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	1	0.39	0.36	0.38			
				3	0.30	0.30	0.30			
				7	0.19	0.17	0.18			
	14	0.29	0.28	0.28						
	フロアブル (10%) 2000 倍 600L/10a 散布	長野果試 (フレハート ップ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	1	0.48	0.47	0.48			
				3	0.55	0.50	0.52			
7				0.46	0.44	0.45				
14	0.33	0.32	0.32							
さんしょう (露地) (果実) 平成 15・16 年度	フロアブル (10%) 4000 倍 300L/10a 散布	和歌山農 総技セ果 試 (ブドウ種)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	7	0.72	0.72	0.72			
				14	0.67	0.61	0.64			
				21	0.60	0.59	0.60			
	28	0.60	0.58	0.59						
	和歌山農 総技セ果 試 (ブドウ種)	和歌山農 総技セ果 試 (ブドウ種)	0	—	<0.1	<0.1	<0.1			
			2	7	0.50	0.50	0.50			
				14	0.58	0.53	0.56			
21				0.56	0.56	0.56				
28	0.41	0.40	0.40							
ぶどう (施設) (果実) 平成 14・15 年度	フロアブル (10%) 40 倍 6L/10a [原液 150ml/10a] 常温煙霧	山梨総 農試 (ピオーネ)	0	—	<0.008	<0.008	<0.008			
			2	14	0.16	0.15	0.16			
				21	0.10	0.09	0.10			
				30	0.05	0.05	0.05			
	45	0.03	0.03	0.03						
	フロアブル (10%) 85 倍 12.8L/10a [原液 150ml/10a] 常温煙霧	島根 農試 (デラウェア)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	14	0.27	0.27	0.27			
				21	0.25	0.24	0.25			
30				0.27	0.26	0.27				

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニール			クロルフェニール		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
サラダ菜 (施設) (茎葉) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 260L/10a 散布	岩手植防 (岡山 サラダ菜)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	7.72	7.44	7.58			
				7	4.51	4.27	4.39			
				14	2.39	2.32	2.36			
	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	埼玉植防 (サマーグリーン)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	4.45	4.31	4.38			
				7	2.58	2.53	2.56			
				14	0.74	0.73	0.74			
リーフレタス (露地) (茎葉) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	長野植防 (晩抽 レッドファイ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	2.85	2.84	2.84			
				7	1.96	1.95	1.96			
				14	0.94	0.91	0.92			
	愛知 農総試 (グリーン ウェーブ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05				
			3	6.14	6.13	6.14				
			7	2.78	2.75	2.76				
			14	1.31	1.28	1.30				
ミニトマト (施設) (果実) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	群馬植防 (サンチェリー 250)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				1	0.21	0.19	0.20	0.15	0.14	0.14
				7	0.12	0.11	0.12	0.10	0.10	0.10
				14	0.14	0.12	0.13	0.08	0.07	0.08
	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	日植防研 高知 (ミニキャロル)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				1	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
				7	0.12	0.12	0.12	0.10	0.09	0.10
				14	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
りんご (露地) (果実) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 400L/10a 散布	福島植防 (ふじ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				1	0.52	0.51	0.52	0.56	0.56	0.56
				7	0.62	0.58	0.60	0.54	0.53	0.54
				21	0.32	0.31	0.32	0.33	0.31	0.32
	フロアブル (10%) 2000 倍 600L/10a 散布	長野果試 (ふじ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				1	0.71	0.67	0.69	0.42	0.41	0.42
				7	0.54	0.54	0.54	0.43	0.43	0.43
				21	0.34	0.32	0.33	0.42	0.42	0.42

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニール			クロルフェニール		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
かぶ (施設) (葉部) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	滋賀農総 セ農試 (夏はく れい)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	9.70	9.49	9.60	7.57	6.93	7.25
				3	7.37	7.28	7.32	5.88	5.26	5.57
				7	5.35	5.19	5.27	4.15	4.15	4.15
				14	1.01	0.98	1.00	1.20	1.16	1.18
		青森農総 研セ (玉里)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	2.61	2.29	2.45	2.29	2.28	2.28
				3	4.77	4.56	4.66	4.23	4.21	4.22
				7	2.73	2.64	2.68	2.85	2.85	2.85
				14	2.42	2.36	2.39	2.13	2.13	2.13
かぶ (施設) (根部) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	滋賀農総 セ農試 (夏はく れい)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
				3	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
				7	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
				14	0.02	0.01	0.02	<0.01	<0.01	<0.01
		青森農総 研セ (玉里)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
				7	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
				14	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04
未成熟えんどう (施設) (さや) 平成 15・16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	和歌山 農試 (美笹)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	1	0.58	0.57	0.58			
				3	0.51	0.48	0.50			
				7	0.17	0.11	0.14			
	フロアブル (10%) 2000 倍 460L/10a 散布	鹿児島 農試 (ニムラ赤 花きぬさ や2号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	1	0.97	0.96	0.96			
				3	0.33	0.32	0.32			
				7	0.22	0.22	0.22			

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニル			クロルフェニル		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
すいぜんじな (施設) (葉茎) 平成 15 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	静岡農試 (在来種)	0	—	<0.1	<0.1	<0.1			
			2	1	10.9	10.4	10.6			
				3	11.2	11.1	11.2			
				7	6.3	6.1	6.2			
				14	6.0	5.6	5.8			
		石川農総 研セ (在来種)	0	—	<0.1	<0.1	<0.1			
			2	1	4.1	3.8	4.0			
				3	4.0	3.9	4.0			
				7	3.8	3.7	3.8			
				14	2.4	2.2	2.3			
非結球 メキャベツ (露地) (えき芽葉) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	静岡農試 (ミニヴェール 6号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	7	0.40	0.36	0.38			
				14	0.17	0.16	0.16			
				21	0.18	0.17	0.18			
		愛知 農総試 (ミニヴェール 6号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	7	0.24	0.23	0.24			
				14	0.20	0.20	0.20			
				21	0.19	0.18	0.18			
非結球 メキャベツ (露地) (本葉) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	静岡農試 (ミニヴェール 6号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	7	4.65	4.60	4.62			
				14	3.47	3.29	3.38			
				21	4.15	3.92	4.04			
		愛知 農総試 (ミニヴェール 6号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	7	5.83	5.80	5.82			
				14	4.97	4.86	4.92			
				21	2.60	2.55	2.58			
みずな (施設) (可食部) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 100L/10a 散布	鹿児島県病 害虫防除所 (犬迫町) (はかた 千緑)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02			
			1	3	1.29	1.26	1.28			
				7	0.88	0.87	0.88			
				14	0.69	0.68	0.68			
		鹿児島県病 害虫防除所 (福元町) (千筋京 水菜)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02			
			1	3	4.88	4.85	4.86			
				7	4.21	4.15	4.18			
				14	2.09	2.07	2.08			

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)							
					分析機関			分析機関				
					クロルフェニル			クロルフェニル				
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値		
山東菜 (施設) (茎葉) 平成 15・16 年度	7077 <sup>g</sup> /L (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	鹿児島農試 (春蒔新 山東菜)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02					
			1	3	0.88	0.87	0.88					
				7	0.30	0.29	0.30					
				14	0.28	0.27	0.28					
		鹿児島農試 (春蒔新 山東菜)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01					
			1	3	1.98	1.95	1.96					
				7	1.39	1.36	1.38					
				14	0.15	0.15	0.15					
茎ブロッコリー (露地) (花蕾と花茎) 平成 15 年度	7077 <sup>g</sup> /L (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	山口農試 徳佐寒冷地 分場 (スティック セニョール)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05					
			2	1	0.39	0.39	0.39					
				3	0.26	0.25	0.26					
				7	0.22	0.22	0.22					
		山口農試 (スティック セニョール)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05					
			2	1	0.72	0.72	0.72					
				3	0.49	0.48	0.48					
		7		0.29	0.28	0.28						
		なばな (露地) (茎葉) 平成 16・17 年度	7077 <sup>g</sup> /L (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	三重県 農業研 (場内自家 採種系統)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
					2	3	3.32	3.17	3.24			
7	0.97					0.96	0.96					
14	0.59					0.54	0.56					
三重県 農業研 (場内自家採 種系統)	0			—	<0.05	<0.05	<0.05					
	2			3	1.24	1.22	1.23					
				7	0.97	0.93	0.95					
				14	0.23	0.22	0.22					

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニル			クロルフェニル		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
マンゴー (施設) (果実) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	沖縄農試 (ア-ウイン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005			
				14	0.085	0.085	0.085			
				21	0.060	0.059	0.060			
				30	0.056	0.054	0.055			
		宮崎総農試 (ア-ウイン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005			
				14	0.081	0.080	0.080			
				21	0.055	0.054	0.054			
				30	0.055	0.055	0.055			
ゴレンシ (施設) (可食部) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	宮崎県南郷 町大字津屋 野園場 (軟枝系)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				14	0.74	0.74	0.74			
				21	0.74	0.71	0.72			
				30	0.69	0.69	0.69			
		宮崎総農試 亜熱帯支場 (軟枝系)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				14	0.74	0.71	0.72			
				21	0.75	0.74	0.74			
				30	0.68	0.68	0.68			
メキャベツ (露地) (脇芽) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	静岡農試 (小笠) (早生子持)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				7	<0.05	<0.05	<0.05			
				14	<0.05	<0.05	<0.05			
				21	<0.05	<0.05	<0.05			
		静岡農試 (浜松) (早生子持)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				7	<0.05	<0.05	<0.05			
				14	<0.05	<0.05	<0.05			
				21	0.08	0.08	0.08			
葉にんにく (露地) (葉と鱗茎) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200-220L /10a, 散布	沖縄農試 園芸支場 (-)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	3.03	2.84	2.94			
				7	2.62	2.56	2.59			
				14	0.22	0.21	0.22			
	フロアブル (10%) 2000 倍 167L/10a 散布	沖縄県病害 虫防除所 (島在来種)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	1.44	1.30	1.37			
				7	0.55	0.54	0.54			
				14	0.15	0.13	0.14			

空欄は分析値なし。



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニール			クロルフェニール		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
みつば (施設) (茎葉) 平成 16・17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 100L/10a 散布	静岡農試 (関西系)	0	—	<0.1	<0.1	<0.1			
			1	3	2.2	2.1	2.2			
				7	1.7	1.7	1.7			
				14	1.3	1.3	1.3			
		静岡農試 (関西系)	0	—	<0.1	<0.1	<0.1			
			1	3	5.1	4.8	5.0			
				7	2.5	2.4	2.4			
				14	0.8	0.7	0.8			
セルリー (施設) (茎葉) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 167L/10a 散布	北海道 中央農試 (コ-ホ 619)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	2.46	2.39	2.42	2.83	2.74	2.78
				7	0.84	0.83	0.84	1.65	1.43	1.54
				14	1.18	1.12	1.15	1.42	1.36	1.39
	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	長野中信 農試 (あずみ野 1号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	1.59	1.56	1.58	1.56	1.52	1.54
				7	1.74	1.70	1.72	1.05	1.04	1.04
				14	1.38	1.35	1.36	0.66	0.61	0.64
コリアンダー (施設) (茎葉) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 150L/10a 散布	愛知農総試 (-)	0	—	<0.04	<0.04	<0.04			
			2	7	3.87	3.43	3.65			
				14	1.60	1.41	1.50			
				21	0.63	0.61	0.62			
	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	静岡農試 (磐青香菜)	0	—	<0.04	<0.04	<0.04			
			2	7	3.32	3.07	3.20			
				14	1.57	1.38	1.48			
				21	1.16	1.05	1.10			
ししとう (施設) (果実) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 4000 倍 300L/10a 散布	高知農技セ 士佐市圃場 (ししま れ)	0	—	<0.08	<0.08	<0.08			
			2	1	0.44	0.40	0.42			
				3	0.27	0.27	0.27			
				7	0.12	0.11	0.12			
		高知農技セ 南国市圃場 (葵しと う)	0	—	<0.08	<0.08	<0.08			
			2	1	0.27	0.27	0.27			
				3	0.19	0.18	0.18			
				7	0.12	0.11	0.12			

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)						
					分析機関			分析機関			
					クロルフェニル			クロルフェニル			
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値	
にがうり (施設) (果実) 平成 15・16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	長崎総農試 (えらぶ)	0	—	<0.1	<0.1	<0.1				
				1	0.4	0.3	0.4				
				2	3	0.3	0.3	0.3			
				7	0.2	0.2	0.2				
		宮崎総農試 (佐土原 3号)	0	—	<0.1	<0.1	<0.1				
				1	0.2	0.2	0.2				
				2	3	0.1	0.1	0.1			
				7	<0.1	<0.1	<0.1				
エンサイ (露地) (茎葉) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L /10a 散布	沖縄県病害 虫防除所 (つるなし 系統)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05				
				2	3	<0.05	<0.05	<0.05			
				7	<0.05	<0.05	<0.05				
				14	<0.05	<0.05	<0.05				
		沖縄農試 八重山支場 (在来種)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05				
				2	3	0.91	0.91	0.91			
				7	0.13	0.12	0.12				
				14	<0.05	<0.05	<0.05				
やなぎたで (施設) (茎葉) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 150L/10a 散布	愛知農総試 豊橋市 飯村町 (在来種)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01				
				2	7	3.08	2.88	2.98			
				14	1.47	1.43	1.45				
				21	0.63	0.62	0.62				
		愛知農総試 豊橋市 杉山町 (在来種)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01				
				2	7	1.31	1.18	1.24			
				14	0.58	0.52	0.55				
				21	0.43	0.41	0.42				
つわぶき (露地) (可食部) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	宮崎総農試 日南市 (おおつわ ぶき)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005				
				2	14	0.058	0.057	0.058			
				21	0.021	0.020	0.020				
				30	0.019	0.017	0.018				
		宮崎総農試 串間市 (おおつわ ぶき)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005				
				2	14	0.054	0.050	0.052			
				21	0.027	0.026	0.026				
				30	0.018	0.016	0.017				

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニル			クロルフェニル		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
やまのいも (露地) (むかご) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 500L/10a 散布	鳥取園試 砂丘地セ (在来種)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
				3	0.39	0.36	0.38			
			2	7	0.60	0.54	0.57			
				14	0.31	0.28	0.30			
		鳥取園試 弓浜分場 (在来種)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
				3	0.71	0.62	0.66			
			2	7	0.52	0.51	0.52			
				14	0.26	0.24	0.25			
食用ぎく (施設) (花全体) 平成 15 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	愛知農総試 (三河 こまち)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004			
				3	0.986	0.901	0.944			
			2	7	0.478	0.302	0.390			
				14	0.121	0.094	0.108			
	フロアブル (10%) 2000 倍 493L/10a 散布	山形園試 (寿)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004			
				3	3.375	2.737	3.056			
			2	7	1.185	0.830	1.008			
				14	0.282	0.267	0.274			
食用プリムラ (施設) (花器全体) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 150L/10a 散布	愛知農総試 豊橋市 川崎町 (豊橋温室 選抜品種)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
				7	5.93	5.66	5.80			
			2	14	0.58	0.56	0.57			
				21	0.50	0.47	0.48			
		愛知農総試 豊橋市 長瀬町 (豊橋温室 選抜品種)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
				7	5.58	5.42	5.50			
			2	14	0.65	0.59	0.62			
				21	0.21	0.18	0.20			
かぼちゃ (鹿児島: 露地 宮崎: 施設) (果実) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	鹿児島 農試 (えびす)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05	<0.05
				1	0.057	0.056	0.056	0.06	0.06	0.06
			2	3	0.021	0.021	0.021	0.06	0.06	0.06
				7	0.019	0.018	0.018	<0.05	<0.05	<0.05
		宮崎総農 試 (宮崎早生 一号)	0	—	<0.005	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				1	0.12	0.12	0.12	0.07	0.07	0.07
			2	3	0.088	0.088	0.088	0.08	0.08	0.08
				7	0.060	0.059	0.060	0.06	0.05	0.06

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニル			クロルフェニル		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
バナナ (露地) (果実) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	沖縄県病害 虫防除所 (三尺)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02			
				7	0.40	0.40	0.40			
			2	14	0.28	0.27	0.28			
				21	0.26	0.25	0.26			
		沖縄農試 (三尺)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02			
				7	1.07	1.07	1.07			
			2	14	0.83	0.83	0.83			
				21	0.66	0.66	0.66			
よもぎ (露地) (葉) 平成 16 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200・300L /10a、散布	沖縄農試 園芸支場 (-)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	3.97	3.89	3.93			
			1	7	2.89	2.78	2.84			
				14	1.13	1.11	1.12			
		沖縄県南部 農業改良普 及センター (-)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	5.11	4.77	4.94			
			1	7	4.45	4.41	4.43			
				14	3.13	2.94	3.04			
リーフレタス (露地) (茎葉) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	奈良 植防 (グリーン ウェブ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	11.0	10.9	11.0			
			2	7	10.3	9.93	10.1			
				14	10.6	9.86	10.2			
		徳島 植防 (レッド ファイヤー)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	5.78	5.54	5.66			
			2	7	3.35	3.34	3.34			
				14	2.11	2.04	2.08			
サラダ菜 (施設) (茎葉) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	埼玉植防 (サンタカラ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	4.88	4.88	4.88			
			2	7	4.54	4.36	4.45			
				14	2.60	2.57	2.58			
		岐阜植防 (岡山 サラダ菜)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05			
				3	11.7	11.5	11.6			
			2	7	7.06	6.87	6.96			
				14	3.79	3.66	3.72			

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)							
					分析機関			分析機関				
					クロルフェニル			クロルフェニル				
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値		
かぶ (施設) (根部) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	埼玉植防 (あずま 金町かぶ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01					
				2	1	0.03	0.02	0.02				
					7	0.02	0.02	0.02				
					14	0.01	0.01	0.01				
	21	0.02	0.02	0.02								
		フロアブル (10%) 2000 倍 270L/10a 散布	日植防研 宮崎 (耐病 ひかり)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01				
					2	1	0.03	0.03	0.03			
						7	0.04	0.04	0.04			
14	0.04					0.04	0.04					
21	0.02	0.02	0.02									
かぶ (施設) (葉部) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	埼玉植防 (あずま 金町かぶ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05					
				2	1	9.53	9.52	9.52				
					7	4.14	4.12	4.13				
					14	2.83	2.82	2.82				
	21	1.23	1.22	1.22								
	フロアブル (10%) 2000 倍 270L/10a 散布	日植防研 宮崎 (耐病 ひかり)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05					
				2	1	5.40	5.33	5.36				
					7	4.37	4.35	4.36				
14					5.39	5.35	5.37					
21	1.95	1.94	1.94									
すもも (露地) (果実) 平成 19 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 400L/10a 散布	福島植防 (大石 早生)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01					
				2	1	0.07	0.07	0.07				
					3	0.10	0.09	0.10				
					14	0.03	0.02	0.02				
	長野植防 須坂 (大石 早生)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01						
			2	1	0.19	0.18	0.18					
				3	0.09	0.08	0.08					
				14	0.11	0.10	0.10					

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)							
					分析機関			分析機関				
					クロルフェニル			クロルフェニル				
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値		
つるむらさき (施設) (茎葉) 平成 18 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	徳島県立農 林水産総合 技術支援セ ンター 徳島市応神町 (一)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02					
					7	0.64	0.62	0.63				
					1	14	0.08	0.07	0.08			
						21	<0.02	<0.02	<0.02			
つるむらさき (施設) (茎葉) 平成 19 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	徳島県立農 林水産総合 技術支援セ ンター 吉野川市鴨島町 (一)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02					
					7	0.40	0.39	0.40				
					1	14	<0.02	<0.02	<0.02			
						21	<0.02	<0.02	<0.02			
せんきゅう (露地) (塊茎) 平成 18 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 150L/10a 散布	北海道立 中央農試 (在来種)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01					
					1	0.01	0.01	0.01				
					2	3	0.07	0.07	0.07			
						7	0.06	0.05	0.06			
		北海道立 十勝農試 (在来種)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01					
					1	0.02	0.02	0.02				
					2	3	0.08	0.08	0.08			
						7	0.06	0.05	0.06			
とうき (露地) (根茎) 平成 17 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 150L/10a 散布	兵庫農林 水産総技 兵庫 丹波市 (一)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05					
					13	0.10	0.10	0.10				
					2	20	0.07	0.07	0.07			
						27	0.07	0.06	0.06			
		兵庫農林 水産総技 奈良 十津川村 (一)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05					
					14	<0.05	<0.05	<0.05				
					2	21	<0.05	<0.05	<0.05			
						28	<0.05	<0.05	<0.05			
食用ミニバラ (施設) (花器全体) 平成 18 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 250L/10a 散布	愛知農総試 豊橋市 大崎町 (サブリナ)	0	—	<0.20	<0.20	<0.20					
					3	1.47	1.43	1.45				
					2	7	0.74	0.74	0.74			
						14	0.25	0.23	0.24			
	フロアブル (10%) 2000 倍 240L/10a 散布	愛知農総試 豊橋市 富久織町 (サブリナ)	0	—	<0.20	<0.20	<0.20					
					3	1.33	1.32	1.32				
					2	7	0.62	0.61	0.62			
						14	<0.20	<0.20	<0.20			

空欄は分析値なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培 形態) (分析 部位) 年度	剤型 (有効成 分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)					
					分析機関			分析機関		
					クロルフェニル			クロルフェニル		
					分析値	分析値	平均値	分析値	分析値	平均値
キャベツ (露地) (葉球) 平成 19 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	群馬植防 (金系 201)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.13	0.13	0.13	0.17	0.17	0.17
				3	0.32	0.29	0.30	0.30	0.30	0.30
				14	0.10	0.10	0.10	0.04	0.04	0.04
		新潟農総研 中山間地 (やひこ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.34	0.32	0.33	0.32	0.31	0.32
				3	0.21	0.20	0.20	0.18	0.17	0.18
				14	0.05	0.05	0.05	0.02	0.02	0.02
キイロルーツ (露地) (果肉) 平成 18 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	奈良植防 (香緑)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01			
				3	<0.01	<0.01	<0.01			
				7	<0.01	<0.01	<0.01			
		徳島植防 (〜ワート)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01			
				3	<0.01	<0.01	<0.01			
				7	<0.01	<0.01	<0.01			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分 量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェニル		クロルフェニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
なす (施設)  [果実] 平成 21 年度	フロアブル (10.0%) 2000 倍	群馬植防 (式部)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.17	0.17	0.18	0.18
			4	3	0.09	0.09	0.08	0.08
			4	7	0.02	0.02	0.02	0.02
	180-300L /10a 散布	日植防研 宮崎試験場 (黒陽)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.18	0.18	0.23	0.22
			4	3	0.19	0.19	0.20	0.20
			4	7	0.12	0.12	0.13	0.13
うめ  [果実] 平成 19 年度	フロアブル (10.0%) 2000 倍	群馬植防 (白加賀)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.52	0.50	0.53	0.52
			2	3	0.40	0.39	0.53	0.52
			2	14	0.29	0.28	0.14	0.14
	400L/10a 散布	奈良植防 (南高)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.17	0.16	0.23	0.23
			2	3	0.38	0.38	0.37	0.37
			2	14	0.23	0.22	0.33	0.32
えだまめ  [さや] 平成 20 年度	フロアブル (10.0%) 2000 倍	青森植防 (津森どり)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.42	0.41	0.46	0.46
			2	3	0.34	0.32	0.34	0.34
			2	14	0.26	0.26	0.32	0.32
	200L/10a 散布	福島植防 郡山試験地 (玉すだれ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	1.76	1.67	1.61	1.60
			2	3	1.55	1.48	1.40	1.36
			2	14	0.65	0.64	0.69	0.69
さやいんげん (施設)  [さや] 平成 20 年度	フロアブル (10.0%) 2000 倍	福島植防 郡山試験地 (いちず)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.12	0.12	0.11	0.11
			2	3	0.08	0.08	0.09	0.08
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	200L/10a 散布	岐阜植防 (モロッコ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.14	0.14	0.16	0.15
			2	3	0.09	0.09	0.09	0.09
			2	14	0.06	0.06	0.06	0.06



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分 量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェニル		クロルフェニル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
しゅんぎく (施設) [茎葉] 平成20年度	7077 <sup>®</sup> ル (10.0%) 2000倍	福島植防 郡山試験地 (中葉春菊)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	11.5	11.2	11.0	10.9
			2	3	12.3	12.0	8.44	8.40
			2	14	3.15	3.14	2.59	2.58
	150L/10a 散布	日植防研 山梨試験地 (中葉春菊)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	13.4	13.4	9.15	9.02
			2	3	11.1	10.9	7.74	7.58
			2	14	8.46	8.09	5.08	4.92
しょうが [塊茎] 平成21年度	7077 <sup>®</sup> ル (10.0%) 2000倍	和歌山植防 (土佐一)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	200L/10a 散布	高知県 農業技術 センター (おぼろ系)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
にんじん (露地) [根] 平成21年度	7077 <sup>®</sup> ル (10.0%) 2000倍	北海道植防 (向陽2号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.03	0.03	0.01	0.01
			2	3	0.04	0.04	0.02	0.02
			2	7	0.03	0.03	0.02	0.02
	200L/10a (北海道) 178L/10a (鹿児島) 散布	鹿児島県農 業環境協会 (向陽2号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	0.02	0.02	0.01	0.01
			2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01
はくさい (露地) [茎葉] 平成20年度	7077 <sup>®</sup> ル (10.0%) 2000倍	長野植防 南信研究所 (耐病60日)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.66	0.64	0.26	0.26
			2	3	0.61	0.58	0.13	0.13
			2	14	0.25	0.24	0.08	0.08
	300L/10a(長野) 200L/10a(三重) 散布	三重植防 (王将)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.47	0.46	0.39	0.39
			2	3	0.50	0.48	0.34	0.34
			2	14	0.15	0.15	0.09	0.09

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分 量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェニール		クロルフェニール	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ブロッコリー [花蕾] 平成 20 年度	フロアブル (10.0%) 2000 倍 300L/10a (群馬) 256L/10a (徳島) 散布	群馬植防 (ビケル)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.97	0.96	1.11	1.10
			2	3	0.71	0.68	0.64	0.64
			2	14	0.16	0.16	0.07	0.06
	徳島植防 (改良緑炎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	1	0.27	0.27	0.26	0.26	
		2	3	0.22	0.22	0.20	0.20	
		2	14	0.12	0.12	0.10	0.10	
ほうれんそう (施設) [茎葉] 平成 21 年度	フロアブル (10.0%) 4000 倍 155L/10 a (日植防研)	日植防研 (強カオ-7)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	7	2.82	2.77	2.46	2.42
			1	14	1.08	1.06	0.83	0.81
			1	21	0.17	0.17	0.16	0.16
	日植防研 高知 (強カオ-7)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		1	7	2.75	2.68	2.68	2.58	
		1	14	0.69	0.68	0.57	0.57	
		1	21	0.04	0.04	0.05	0.05	
レタス (施設) (茎葉) 平成 19 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 150~ 200L/10a 散布	三重植防 (Vレタス)	0	—			<0.01	<0.01
			2	1			0.54	0.52
			2	3			0.44	0.44
			2	14			0.03	0.03
	日植防研 宮崎 (シスコ)	0	—			<0.01	<0.01	
		2	1			0.04	0.04	
		2	3			<0.01	<0.01	
		2	14			<0.01	<0.01	
レタス (施設) (茎葉) 平成 20 年度 (日植防研) 平成 19 年度 (和歌山)	フロアブル (10%) 2000 倍 270 L/10a (日植防研)	日植防研 (ファルコン)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	1.35	1.32	0.76	0.74
			2	3	1.36	1.36	0.65	0.62
			2	14	0.68	0.68	0.26	0.26
	和歌山植防 (橋本) (パークレー)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	1	0.73	0.71	1.00	1.00	
		2	3	0.47	0.47	0.71	0.70	
		2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分 量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェナピル		クロルフェナピル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
たらのき (露地) (新芽) 平成 20 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	香川農試 (こまみどり)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	84	0.02	0.02		
			2	87	0.01	0.01		
			2	91	0.01	0.01		
		徳島農試 (徳島在来)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	84	<0.01	<0.01		
			2	87	<0.01	<0.01		
			2	91	<0.01	<0.01		
はまぼうふう (茎葉) 平成 19 年度 平成 20 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 100L/10a 散布	埼玉農総 研センター (在来)	0	—	<0.1	<0.1		
			3	111	<0.1	<0.1		
		埼玉農総 研センター (在来)	0	—	<0.1	<0.1		
			3	87	<0.1	<0.1		
うど (茎葉) 平成 20 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	群馬農技セ ンター、 沼田市 利根町 (愛知坊主)	0	—	<0.2	<0.2		
			2	71	<0.2	<0.2		
			2	78	<0.2	<0.2		
			2	85	<0.2	<0.2		
		群馬農技セ ンター 沼田市 井土上町 (改良伊勢)	0	—	<0.2	<0.2		
			2	71	<0.2	<0.2		
			2	78	<0.2	<0.2		
			2	85	<0.2	<0.2		
ふきのとう (花蕾) 平成 18 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 300L/10a 散布	群馬農技セ ンター 沼田市 井土上町 (水ブキ)	0	—	<0.3	<0.3		
			2	98	<0.3	<0.3		
			2	105	<0.3	<0.3		
			2	112	<0.3	<0.3		
		群馬農技セ ンター 利根郡 昭和村 (水ブキ)	0	—	<0.3	<0.3		
			2	98	<0.3	<0.3		
			2	105	<0.3	<0.3		
			2	112	<0.3	<0.3		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェナピル		クロルフェナピル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
きく (施設) (葉) 平成 19 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	愛知農総試 豊橋市 天伯町 (豊橋 1 号)	0	—	<0.10	<0.10		
			2	7	6.02	5.82		
			2	14	1.56	1.54		
			2	21	0.21	0.20		
		愛知農総試 豊橋市 下条西町 (豊橋 1 号)	0	—	<0.10	<0.10		
			2	7	5.87	5.65		
			2	14	0.40	0.40		
			2	21	<0.10	<0.10		
きゅうり (施設) (果実) 平成 22 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 250L/10a 散布	福島植防 (夏元気)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.05	0.05	0.04	0.04
			3	3	0.04	0.04	0.02	0.02
		石川植防 (シャープ 1)	3	7	0.03	0.03	0.02	0.02
			0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.08	0.08	0.07	0.06
			3	3	0.06	0.06	0.06	0.06
			3	7	0.03	0.03	0.03	0.03
ミニトマト (施設) (果実) 平成 22 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a (岩手植防) 297L/10a (日植防研) 散布	岩手植防 (オレンジ キャロル)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.31	0.30	0.28	0.28
			3	3	0.35	0.35	0.31	0.30
			3	7	0.25	0.25	0.30	0.29
		日植防研 (ミニキャ ロル)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.43	0.42	0.49	0.48
			3	3	0.44	0.44	0.39	0.38
			3	7	0.34	0.33	0.39	0.37

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェナピル		クロルフェナピル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
なし (露地) (果実) 平成 23 年度  (GLP)	フロアブル (10%) 2000 倍 500L/10a (石川植防) 450L/10a (日植防研) 散布	石川植防 (幸水)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	0.43	0.43		
			3	3	0.36	0.36		
			3	7	0.35	0.33		
			3	21	0.30	0.29		
		日植防研 (幸水)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	0.39	0.38		
			3	3	0.37	0.36		
			3	7	0.40	0.40		
			3	21	0.26	0.26		
ブルーベリー (露地) (果実) 平成 23 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 350L/10a (山梨) 400L/10a (長野植防) 散布	日植防山梨 (ブルーレイ)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	0.68	0.66		
			3	3	0.66	0.64		
			3	7	0.32	0.32		
			3	14	0.25	0.24		
		長野植防 須坂研 (ジャージー)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	1.43	1.43		
			3	3	1.18	1.14		
			3	7	1.09	1.08		
			3	14	0.71	0.70		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (分析値, ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロルフェナピル		クロルフェナピル	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ヤングコーン (露地) (可食部) 平成 20 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	福井植防 (キャンベラ 90)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	1	<0.01	<0.01		
			2	3	<0.01	<0.01		
			2	14	<0.01	<0.01		
		岐阜植防 (カクテル 90)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	1	<0.01	<0.01		
			2	3	<0.01	<0.01		
			2	14	<0.01	<0.01		
未成熟とう もろこし (露地) (種子) 平成 20 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 200L/10a 散布	福井植防 (キャンベラ 90)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		岐阜植防 (カクテル 84EX)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
とうもろこ し(子実) (露地) (乾燥種実) 平成 20 年度	フロアブル (10%) 2000 倍 196.4L/10a (北海道) 200L/10a (鹿児島) 散布	北海道植防 (イエローホップ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		鹿児島 農環協会 植防部会 (30D44)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

参考. クロルフェナピルの主要代謝物の作物残留試験

(参考資料)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

2. 乳汁試験

試験省略理由：家畜の飼料の用に供される農作物以外の農作物に使用するため。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

### 3. 土壌残留

#### (1) 分析法の原理と操作概要

#### (2) 分析対象の化合物

・親化合物 (クロルフェナピル)

4-ブ<sup>o</sup>モ-2-(4-クロロフェニル)-1-エトキシメチル-5-トリフルオロメチルピ<sup>o</sup>ロール-3-カルボ<sup>o</sup>ニトリル

$C_{15}H_{11}BrClF_3N_2O$     MW : 407.6

・代謝物            (D)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

(3) 残留試験結果

1) 容器内試験

推定半減期

親化合物	火山灰軽埴土（日植防研）	23 日
	洪積重埴土（福岡農総試）	92 日
	火山灰軽埴土（熊本農研）	40 日
親化合物+代謝物	(D) 洪積重埴土（福岡農総試）	114 日

No.	試料調製 及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測定値 (mg/kg)					
		濃度	回数		親化合物		(D)		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値		
1	日植防研 (火山灰 軽埴土) 畑地土壌  平成 5 年度	純品	0.15 mg/kg  27°C	0	—	<0.005	<0.005			
				1	0	0.147	0.146			
				1	3	0.122	0.122			
				1	7	0.108	0.107			
				1	14	0.090	0.090			
				1	31	0.059	0.058			
				1	62	0.041	0.041			
				1	90	0.034	0.033			
				1	120	0.029	0.027			
				1	150	0.020	0.019			
2	福岡農総試 八女分場 (洪積 重埴土) 畑地土壌  平成 5 年度	純品	0.15 mg/kg  27°C	0	—	<0.005	<0.005			
				1	0	0.150	0.148			
				1	3	0.141	0.140			
				1	7	0.135	0.133			
				1	14	0.136	0.132			
				1	30	0.134	0.134			
				1	62	0.111	0.109			
				1	94	0.075	0.072			
				1	122	0.055	0.053			
				1	150	0.040	0.038			
1	241	0.022	0.022							
3	熊本農研 センター 農園芸研 (火山灰 軽埴土) 畑地土壌  平成 5 年度	純品	0.15 mg/kg  27°C	0	—	<0.005	<0.005			
				1	0	0.140	0.140			
				1	3	0.099	0.092			
				1	7	0.093	0.092			
				1	14	0.079	0.076			
				1	30	0.088	0.086			
				1	62	0.044	0.043			
				1	94	0.045	0.041			
				1	122	0.029	0.028			
				1	150	0.019	0.018			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

2) 圃場試験

推定半減期

親化合物 火山灰軽埴土（日植防研） 35 日  
 沖積埴壤土（日植防高知） 48 日

No.	試料調製 及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測定値 (mg/kg)				
		濃度・ 量	回数		親化合物		(D)		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	
1	日植防研  (火山灰 軽埴土) 畑地土壤  平成5年度	フロ ア ブル (10%)	0	—	<0.005	<0.005			
			2	0	0.223	0.206			
			2	3	0.281	0.266			
			2	7	0.096	0.093			
			2	14	0.109	0.103			
			2	21	0.061	0.058			
			2	30	0.181	0.170			
			2	45	0.080	0.080			
			2	60	0.113	0.111			
			2	90	0.105	0.097			
2	日植防研 高知  (沖積 埴壤土) 畑地土壤  平成5年度	2000 倍  300L/ 10a	0	—	<0.005	<0.005			
			2	0	0.125	0.116			
			2	3	0.262	0.258			
			2	7	0.151	0.144			
			2	14	0.105	0.105			
			2	21	0.165	0.162			
			2	30	0.068	0.066			
			2	45	0.108	0.100			
			2	60	0.087	0.083			
			2	90	0.055	0.052			
			2	120	0.040	0.040			



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

#### 4. 後作残留試験

試験省略理由：土壌残留試験（ほ場試験）において、有効成分クロルフェナピルの推定半減期が100日以内であるため。

クロルフェナピルのほ場試験の推定半減期：35～48日

#### 5. 水質汚濁性

試験省略理由：水田において使用されないため。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

## VI. 有用動植物等に及ぼす影響

### 1. 水産動植物に対する影響

#### (1) 原体の水産動植物に対する影響

No.	試験の種類・ 被験物質	供試 生物	1群当 りの 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC <sub>50</sub> 又はEC <sub>50</sub> 値 (mg/L) [( )内は有効成分換算値]				試験機関 (報告年)	記 載 頁
						24h	48h	72h	96h		
1 GLP	魚類急性毒性試験・ 原体	コイ <sup>1)</sup>	10	止水	20.6 ～ 21.0	0.292*	0.242*	0.205*	0.175*		a-82
6 GLP	魚類急性毒性試験・ 原体	ブルキ ムシフイ シュ <sup>2)</sup>	20	流水	21.4 ～ 24.4	0.0279*	0.0172*	0.0128*	0.0116*		a-83
8 GLP	魚類急性毒性試験・ 原体	ニジマス <sup>3)</sup>	20	流水	10.6 ～ 13.5	0.0182*	0.00966 *	0.00767 *	0.00744 *		a-84
2 GLP	シジコ類急性遊泳阻 害試験・ 原体	オオシジ コ <sup>4)</sup>	20	流水	18.0 ～ 19.7	0.00968 *	0.00703 *	0.00627 *	0.00611 *		a-85
3 GLP	藻類生長阻害試験・ 原体	緑藻 <sup>5)</sup>	初期濃度 10 <sup>4</sup> cells/mL	振とう 培養法	24.0 ～ 24.1	ErC <sub>50</sub> (0-72h) >0.551* NOECr 0.015 (申請者が算出)					a-86

\*実測値に基づくLC<sub>50</sub>値又はEC<sub>50</sub>値

<sup>1)</sup> : *Cyprinus carpio*

<sup>2)</sup> : *Lepomis macrochirus*

<sup>3)</sup> : *Oncorhynchus myskiss*

<sup>4)</sup> : *Daphnia magna*

<sup>5)</sup> : *Pseudokirchneeriella subcapitata* (旧学名 *Selenastrum capricornutum*)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

(2) 水和剤（フロアブル）の水産動植物に対する影響

No.	試験の種類・ 被験物質	供試 生物	1群当 りの 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC <sub>50</sub> またはEC <sub>50</sub> 値 (mg/L) 〔()内は有効成分換算値〕				試験機関 (報告年)	記載 頁
						24h	48h	72h	96h		
1 GLP	魚類急性毒性試験・ 水和剤 (10%)	コイ <sup>1)</sup>	10	半止水	22.8 ~ 23.0	>1.00	0.642	0.507	0.463		a-87
2 GLP	ミシノコ類急性遊泳阻 害試験・ 水和剤 (10%)	オオミシノ コ <sup>2)</sup>	20	止水	20.0	0.0407	0.0407	-	-		a-88
3 GLP	藻類生長阻害試験・ 水和剤 (10%)	緑藻 <sup>3)</sup>	初期濃度 10 <sup>4</sup> cells/mL	振とう 培養法	23.1 ~ 23.5	ErC <sub>50</sub> (24-48h) >1000 (24-72h) >1000 EbC <sub>50</sub> (0-72h) 126					a-89
4	土壌存在下の急性毒 性試験・ 水和剤(10%)	コイ <sup>1)</sup>	10	止水	25.0 ~ 25.9	①土壌無し (被験物質を水面施用) LC <sub>50</sub> : 1.88 (48h), 1.64 (96h) ②土壌あり (被験物質を水面施用) LC <sub>50</sub> : 1.23 (48h), 1.00 (96h) ③土壌あり (被験物質を土壌施用) LC <sub>50</sub> : 13.3 (48h), 7.88 (96h)					-

<sup>1)</sup> : *Cyprinus carpio*

<sup>2)</sup> : *Daphnia magna*

<sup>3)</sup> : *Pseudokirchneeriella subcapitata* (旧学名 *Selenastrum capricornutum*)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

(3) クロルフェナピルの代謝物 (D) のコイに対する急性毒性

魚及び土壌における主代謝物である (D) について、コイに対する急性毒性を実施した結果、クロルフェナピルと比較して魚毒性は弱い。

No.	試験の種類・ 被験物質	供試 生物	1群当 りの 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	死亡率 (%)			試験機関 (報告年)
						濃度 (ppm)	48h	96h	
1	魚類急性毒性試験・ (D)	コイ <sup>1)</sup>	10	止水	25	0.1	10	10	
						0.5	40	50	
						2.0	100	100	

<sup>1)</sup> : *Cyprinus carpio*

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

## 水産動植物への影響に関する試験

### 1) コイを用いた急性毒性試験

(資料No. 1)

被験物質： クロルフェナピル原体

供試生物： コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

10尾/群、体長 4.71±0.16 cm (範囲 4.36~4.90 cm)

体重 1.17±0.12 g (範囲 0.98~1.38 g)

方法： 被験物質をDMSOに溶解して試験用原液を調製した。これを一定の割合で試験用水混合して0.54、0.36、0.24、0.16、0.11 mg/Lの試験溶液を調製した。助剤対照区を設けた。助剤の濃度は0.1mg/Lであった。試験液にコイを96時間暴露し、生死および症状を暴露24、48、72、96時間後に観察した。試験は止水式で実施し、期間中穏やかな曝気を行った。

試験水温： 20.6~21.0°C

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.11、0.16、0.24、0.36、0.54	
実測濃度 (mg/L)	0.053、0.078、0.131、0.196、0.270	
LC50 (mg/L) <sup>a</sup> (95%信頼限界)	24時間	0.292 <sup>c</sup>
	48時間	0.242 (0.197~0.313) <sup>d</sup>
	72時間	0.205 (0.165~0.261) <sup>d</sup>
	96時間	0.175 (0.133~0.240) <sup>d</sup>
NOEC (mg/L) <sup>a,b</sup>	0.053	
死亡例の認められなかった最高濃度 (mg/L) <sup>a</sup>	0.053	

a : 実測濃度に基づく値

b : 暴露開始後96時間における値

c : Doudoroff法により算出

d : Probit法により算出

0.270mg/L群では90%が死亡し、0.053mg/L群では死亡、中毒症状はみられなかった。0.078mg/L以上の群でみられた中毒症状は、横転および運動量低下であった。

2) ブルーギルサンフィッシュを用いた急性毒性試験

(資料No. 6)

被験物質： クロルフェナピル原体

供試生物： ブルーギルサンフィッシュ (学名 *Lepomis macrochirus*)

20匹/群、体長 29±4mm (範囲 24~35 mm)

体重 0.48±0.24g (範囲 0.21~0.95 g)

方 法： 被験物質をDMFに溶解して試験用原液を調製した。これを一定の割合で試験用水を混合して57.4、34.5、20.7、12.4、7.44 μg/Lの試験溶液を調製した。

試験液にブルーギルサンフィッシュを96時間暴露し、生死および症状を暴露24、48、72、96時間後に観察した。試験は流水式で実施し、曝気は行わなかった。

試験水温： 21.4~24.4℃

結 果：

設定濃度 (μg/L)	7.44、12.4、20.7、34.5、57.4	
実測濃度 (μg/L)	5.03、9.53、14.7、26.2、43.2	
LC50 (μg/L) <sup>a</sup> (95%信頼限界)	24時間	27.9 (14.7~43.2) <sup>c</sup>
	48時間	17.2 (14.7~26.2) <sup>c</sup>
	72時間	12.8 (9.53~14.7) <sup>c</sup>
	96時間	11.6 (9.53~14.7) <sup>c</sup>
NOEC (μg/L) <sup>a,b</sup>	5.03	

a: 実測濃度に基づく値

b: 暴露開始後96時間における値

c: Probit法により算出

26.2 μg/L以上の群では100%が死亡し、5.03 μg/L群での死亡率は未処理対照群の死亡率と等しく5%であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

3) ニジマスを用いた急性毒性試験

(資料No. 8)

被験物質： クロルフェナピル原体

供試生物： ニジマス (学名 *Oncorhynchus mykiss*)

20匹/群、体長  $50 \pm 3$ mm (範囲 43~56 mm)

体重  $1.90 \pm 0.43$ g (範囲 0.78~2.75 g)

方法： 被験物質をDMFに溶解して試験用原液を調製した。これを一定の割合で試験用水を混合して5.2、8.6、14、24、40  $\mu$ g/Lの試験溶液を調製した。

試験液にニジマスを96時間暴露し、生死および症状を暴露24、48、72、96時間後に観察した。試験は流水式で実施し、曝気は行わなかった。

試験水温：  $10.6 \sim 13.5$ °C

結果：

設定濃度 ( $\mu$ g/L)	5.2、8.6、14、24、40	
実測濃度 ( $\mu$ g/L)	2.61、4.68、8.01、18.4、32.4	
LC50 ( $\mu$ g/L) <sup>a</sup> (95%信頼限界)	24時間	18.2 (14.7~22.4) <sup>c</sup>
	48時間	9.66 (4.68~18.4) <sup>c</sup>
	72時間	7.67 (6.65~9.36) <sup>c</sup>
	96時間	7.44 (6.48~8.95) <sup>c</sup>
NOEC ( $\mu$ g/L) <sup>a,b</sup>	2.61	

a：実測濃度に基づく値

b：暴露開始後96時間における値

c：Probit法又はBinomial法により算出

18.4  $\mu$ g/L以上の群では100%が死亡し、2.61  $\mu$ g/L群では死亡はみられなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日本農薬株式会社にある。

4) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料No. 2)

被験物質： クロルフェナピル原体

供試生物： オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)  
20頭/群 (生後24時間以内の幼体)

方 法： 被験物質の一定量をジメチルホルムアミド (DMF) に溶解して試験原液を調製した。試験原液を希釈水で希釈して0.00194、0.00324、0.0054、0.0090、0.015 mg/Lの試験液を調製した。助剤対照、希釈水対照を設け、助剤対照の助剤濃度は0.1mL/Lであった。試験液にオオミジンコを24、48、72、96時間曝露し、各曝露時間後に生死を観察し死亡または動かない個体は排除した。行動ないし外観の異常も観察した。試験は流水式で実施した。

試験水温： 18.0～19.7℃

結 果：

設定濃度 (mg/L)	0.00194、0.00324、0.0054、0.0090、0.015	
実測濃度 (mg/L)	0.00140、0.00252、0.00386、0.00631、0.0107	
EC50 (mg/L) <sup>a、b</sup> (95%信頼限界)	24時間	0.00968 (0.00847～0.0114)
	48時間	0.00703 (0.00619～0.00804)
	72時間	0.00627 (0.00552～0.00717)
	96時間	0.00611 (0.00535～0.00704)
NOEC (mg/L) <sup>a</sup>	0.00252	
死亡例の認められなかった 最高濃度 (mg/L) <sup>a</sup>	0.00252	

a : 実測濃度に基づく値

b : Probit法 により算出

試験期間中の実測濃度は、設定濃度の70～78%の範囲にあった。



5) 藻類生長阻害試験

(資料No. 3)

被験物質： クロルフェナピル原体

供試生物： 緑藻 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*)

初期濃度  $1.0 \times 10^4$  cells/mL

方法： 被験物質をN,N-ジメチルホルムアミド (DMF) に溶解して試験原液とし、AAP培養液で希釈して設定濃度0.025、0.050、0.10、0.20、0.40、0.80、1.6 mg/Lの試験液を調製した。助剤対照区、対照区を設け、助剤対照区の助剤濃度は0.1mL/Lであった。

試験液に緑藻を接種し、接種24、48、72時間後に細胞濃度を測定した。培養は白色蛍光ランプによる連続照明下 (照度 約8000 lumens/m<sup>2</sup>) で、振とう培養した。

培養温度： 24.0 ~24.1°C

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.025、0.050、0.10、0.20、0.40、0.80、1.6	
実測濃度 (mg/L) (開始時)	0.020、0.035、0.074、0.133、0.326、0.600*、1.27	
EbC50 (mg/L) # (95%信頼限界)	72時間	0.137 (0.054~0.345)
NOEbC (mg/L) #	0.020	

\* : 0.80 mg/Lのサンプルは分析前に誤って廃棄された。残りのサンプルの平均回収率 (75%) に基づき0.600 mg/Lと推定された。

# : 開始時の実測濃度に基づく。

試験液中の被験物質濃度は、曝露開始時では0.20~1.27mg/L (設定濃度の66.5~81.4%) であった。72時間後の実測濃度は、0.011~0.174mg/L (設定濃度の10.9~47.3%) であった。

申請者注： ErC50 (0~72h)及びNOECrの再計算を行った。

設定濃度 (mg/L)	0.025、0.050、0.10、0.20、0.40、0.80、1.6	
平均実測濃度 (mg/L)	0.015、0.029、0.051、0.102、0.205、0.315、0.551	
ErC50 (mg/L) (95%信頼限界)	0~72時間	>0.551 ( - )
NOECr (mg/L)	0.015	